取扱説明書

ColorEdge® CG319X

カラーマネージメント液晶モニター

このたびは当社カラーマネージメント液晶モニターをお買い求めいただき、誠にありがとうございます。

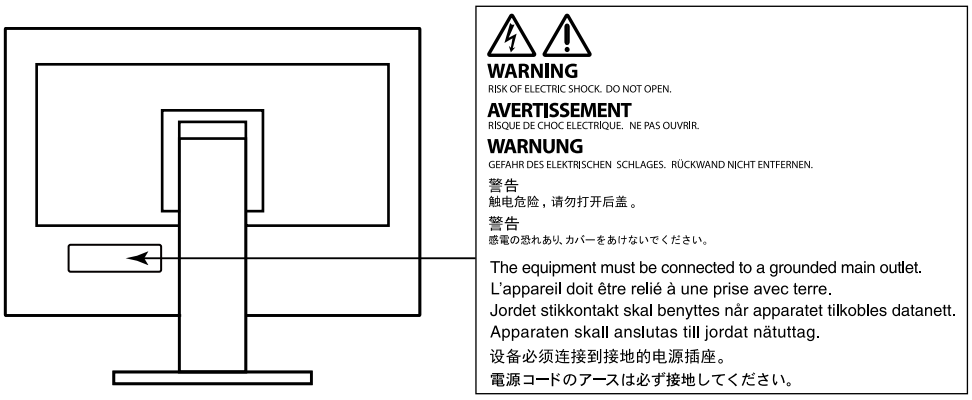
重要

ご使用前には必ずこの取扱説明書および使用上の注意をよくお読みになり、正しくお使いください。

- **モニターの設置 / 接続については、セットアップガイドを参照してください。**
- **取扱説明書を含む最新の製品情報は、当社のWebサイトから確認できます。**
  http://www.eizo.co.jp

EIZO®

警告表示位置



製品の仕様は販売地域により異なります。お買い求めの地域に合った言語の取扱説明書をご確認ください。

1.本書の著作権はEIZO株式会社に帰属します。本書の一部あるいは全部をEIZO株式会社からの事前の許諾を得ることなく転載することは固くお断りします。
2.本書の内容について、将来予告なしに変更することがあります。
3.本書の内容については、万全を期して作成しましたが、万一誤り、記載もれなどお気づきの点がありましたら、ご連絡ください。
4.本機の使用を理由とする損害、逸失利益などの請求につきましては、上記にかかわらず、いかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。

モニターについて

使用について

この製品は、色の再現性を重視する映像制作の用途に適しています。

この製品は、日本国内専用品です。日本国外での使用に関して、当社は一切責任を負いかねます。
This product is designed for use in Japan only and cannot be used in any other countries.

本書に記載されている用途以外での使用は、保証外となる場合があります。

本書に定められている仕様は、付属の電源コードおよび当社が指定する信号ケーブル使用時にのみ適用いたします。

この製品には、当社オプション品または当社が指定する製品をお使いください。

液晶パネルについて

液晶パネルは、非常に精密度の高い技術で作られていますが、画素欠けや常時点灯する画素が見える場合がありますので、あらかじめご了承ください。なお、有効ドット数の割合は99.9994% 以上です。

モニターの表示が安定するまでに、約3分（当社測定条件による）かかります。モニターの調整は電源を入れて3分以上経過するまでお待ちください。

長時間使用することによる画面品位の劣化を抑え、長くご使用いただくには、輝度を下げて使用されることをお勧めします。

同じ画像を長時間表示することによって、表示を変えたときに前の画像が残像として見えることがあります。長時間同じ画像を表示するようなときには、コンピュータのスクリーンセーバーまたはパワーセーブ機能を使用してください。表示する画像によっては、短い時間でも残像が見えることがあります。その場合、画像を変更したり、数時間電源を切った状態にすると、解消されることがあります。

表示状態を長時間続けると、表示面にシミやムラ、焼き付きが発生する場合がありますのでご注意ください。モニターを長くお使いいただくため、定期的にモニターの電源をオフにすることをお勧めします。電源をオフにする際は、モニター前面の電源スイッチを使用してください。

液晶パネルに使用されるバックライトには寿命があります。長時間連続使用など、ご使用状態によっては、バックライトの寿命が早まり、交換が必要となる場合があります。画面が暗くなったり、ちらついたり、点灯しなくなったときには、別紙「お客様ご相談窓口のご案内」に記載の窓口にお問い合わせください。

液晶パネル面や液晶パネルの外枠は強く押さないでください。強く押すと、干渉縞が発生するなど表示異常を起こすことがありますので取り扱いにご注意ください。また、液晶パネル面に圧力を加えたままにしておきますと、液晶の劣化や、液晶パネルの破損などにつながる恐れがあります。（液晶パネルを押した跡が残った場合、画面全体に白い画像または黒い画像を表示すると解消されることがあります。）

液晶パネルを固い物や先のとがった物などで押したり、こすったりしないようにしてください。傷が付く恐れがあります。なお、ティッシュペーパーなどで強くこすっても傷が入りますのでご注意ください。

設置について

この製品を冷え切った状態のまま室内に持ち込んだり、急に室温を上げたりすると、製品の表面や内部に露が生じることがあります（結露）。結露が生じた場合は、結露がなくなるまで製品の電源を入れずにお待ちください。そのまま使用すると故障の原因となることがあります。

ラッカー系の塗料を使用した机にこの製品を置くと、スタンドの底面に使用しているゴムの成分により、色が付着する場合があります。ご使用前にご確認ください。

メンテナンスについて

この製品を美しく保ち、長くお使いいただくためにも定期的にクリーニングをおこなうことをお勧めします。

クリーニングの仕方

キャビネットや液晶パネル面の汚れは、付属の「ScreenCleaner」を使用して、やさしくふき取ってください。

注意点

- アルコール、消毒薬などの薬品は、キャビネットや液晶パネル面の光沢の変化、変色、色あせ、画質の劣化などにつながる恐れがあります。
- シンナー、ベンジン、ワックス、研磨クリーナは、キャビネットや液晶パネル面をいためるため絶対に使用しないでください。

モニターを快適にご使用いただくために

- 画面が暗すぎたり、明るすぎたりすると目に悪影響をおよぼすことがあります。状況に応じてモニター画面の明るさを調整してください。
- 長時間モニター画面を見続けると目が疲れますので、1時間に約10分の休憩を取ってください。

目次

モニターについて 3

クリーニングの仕方 4

モニターを快適にご使用いただくために 4

目次 5

第 1 章　はじめに 6

1-1.　特長 6

- 映像制作に強い、4K高解像度の大型液晶を搭載 6
- HDR（ハイダイナミックレンジ）映像の表示をサポート 6
- 任意に設定可能なカスタムキー機能を搭載 6
- SelfCalibration機能を搭載 7

1-2.　各部の名称と機能 8

- 前面 8
- 背面 9

1-3.　解像度を設定する 10

- Windows 10の場合 10
- Windows 8.1 / Windows 7の場合 10
- OS X Mavericks（10.9）以降の場合 10

第 2 章　基本の設定 11

2-1.　スイッチの操作方法 11

- 操作ガイドのアイコン 11

2-2.　入力信号を切り替える 12

2-3.　表示モード（カラーモード）を切り替える 12

- モードの種類 12
- カラーモードの設定値 13

第 3 章　SelfCalibration 14

- SelfCalibrationの各機能 15

3-1.　目標を設定する 17

3-2.　実行する 17

- スケジュールに関係なく実行する 17
- スケジュールを設定して実行する 17
- Standard ModeでSelfCalibrationを有効にする 17
- Calibration Mode（CALモード）でSelfCalibrationを有効にする 18

3-3.　結果を確認する 18

第 4 章　カスタムキーの設定 19

4-1.　カスタムキーの基本操作方法 19

4-2.　カスタムキーの割り当て方法 19

- カスタムキーに割り当てられる機能 21

第 5 章　詳細な調整 / 設定 22

5-1.　設定メニューの基本操作方法 22

5-2.　設定メニューの各機能 23

- 信号設定 23
- カラー調整 25
- SelfCalibration 30
- スクリーン 31
- 本体設定 35
- 言語選択 37
- インフォメーション 37

第 6 章　管理者向け設定 38

6-1.　「管理者設定」メニューの基本操作方法 38

6-2.　「管理者設定」メニューの各機能 39

第 7 章　トラブルシューティング 41

7-1.　画面が表示されない場合 41

7-2.　画面に関する症状 42

7-3.　SelfCalibrationに関する症状 43

7-4.　その他の症状 44

第 8 章　ご参考に 45

8-1.　オプションアーム取り付け方法 45

8-2.　ケーブルホルダーの取り付け方法/取り外し方法 47

8-3.　複数の外部機器を接続する 49

8-4.　USBハブ機能の使用方法 50

- 接続方法 50

8-5.　仕様 52

- オプション 53

付録 54

商標 54

ライセンス 54

アフターサービス 55

第 1 章　はじめに

この章では、モニターの特長と、各部の名称を説明します。

1-1. 特長

● 映像制作に強い、4K高解像度の大型液晶を搭載

- 31.1型ワイド画面にDCI 4K解像度（4096×2160）対応
  デジタルシネマ規格であるDCI 4K解像度4096×2160に対応しています。フルHDの4倍を超える高解像度で、4K映像だけでなく、フルHD解像度のコンテンツを複数並べて表示できます。
- 広色域表示で映像の色味を忠実に再現
  98 %のDCIカバー率を実現し、高精度のカラーマネージメント環境を構築できます。
- 水平 / 垂直178°の広視野角なIPS液晶パネルを搭載

● HDR（ハイダイナミックレンジ）映像の表示をサポート

- 映画や放送向け、HDR国際標準規格に準拠
  配信、映画制作向けのHDR「PQ方式」と放送向けのHDR「Hybrid Log Gamma（ハイブリッドログガンマ）方式」の両方に対応しています。「PQ方式」は、HDRの国際標準規格であるITU-R BT.2100※1およびSMPTE ST2084※2に、「Hybrid Log Gamma方式」はITU-R BT.2100に準拠しています。これにより、映画作品や放送コンテンツなど幅広いHDRコンテンツの制作作業に活用できます。
  ※1 ITU-Rは、International Telecommunication Union-Radio communication Sector（国際電気通信連合の無線通信部門）です。
  ※2 SMPTEは、Society of Motion Picture and Television Engineers（米国映画テレビ技術者協会）です。
- カラーモード機能を搭載
  ITU-R BT.2100などで定められた色温度、ガンマ、色域を再現できます。
  「カラーモード」（P.25）参照

● 任意に設定可能なカスタムキー機能を搭載

- モニター前部にあるスイッチに頻繁に使用する機能を割り当てることで、作業効率を向上できます。カスタムキーに割り当てられる機能は、次の機能です。
  - 入力レンジ
  - ズーム
  - REC709色域外警告
  - 輝度警告
  - セーフエリア
  - アスペクトマーカー
  - カラーモードリターン
  - インフォメーション

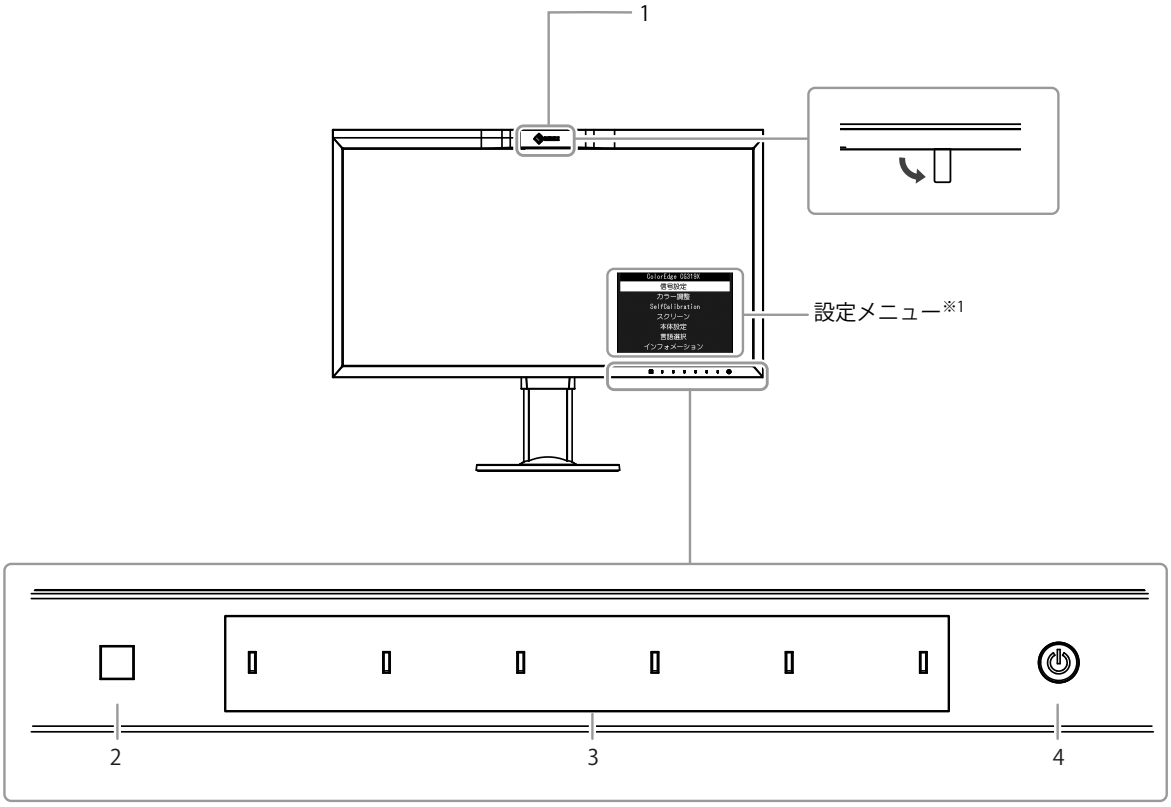
  「第 4 章 カスタムキーの設定」（P.19）参照

● SelfCalibration機能を搭載

- 内蔵キャリブレーションセンサーを搭載し、SelfCalibration（セルフキャリブレーション）によるモニター単独でのキャリブレーションに対応
  事前に調整目標や調整の実行スケジュールを設定すると、キャリブレーションセンサーが自動的に作動し、定期的にモニターを調整できます。また、モニター特性の測定と調整、カラープロファイルの作成が可能なカラーマネージメントソフトウェア「ColorNavigator 6」、「ColorNavigator NX」に対応しています。
  調整目標や実行スケジュールは、ソフトウェア（ColorNavigator 6またはColorNavigator NX）およびモニターの設定メニューで設定できます。
  SelfCalibrationの調整結果はモニターの調整メニューで確認できます。
  「第 3 章 SelfCalibration」（P.14）参照

1-2. 各部の名称と機能

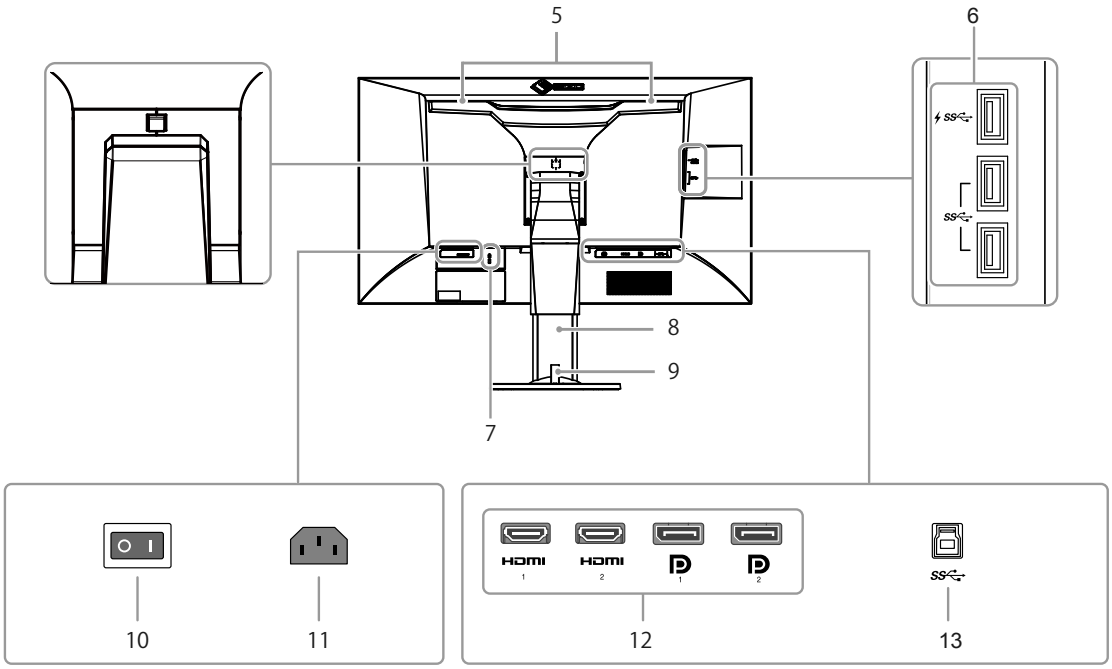
● 前面



1. 内蔵キャリブレーションセンサー	モニターのキャリブレーションをおこなうためのセンサーです。 （SelfCalibration（セルフキャリブレーション）機能）
2. 環境光センサー	環境光を測定するセンサーです。
3. 操作スイッチ	メニューを表示します。ガイドに従って操作します。 スイッチに触れるとメニューが表示されます。 電源を入れると、スイッチのランプが白色に点灯します。
4. 電源スイッチ	電源のオン / オフを切り替えます。 スイッチに触れると電源が入ります。 電源を入れると、スイッチのランプが点灯します。モニターの動作状態に応じてランプの色が変化します。 白　　：動作モード 橙　　：省電力モード 消灯　　：電源オフ

※1 設定メニューの使用方法は、「5-1. 設定メニューの基本操作方法」（P.22）を参照してください。

● 背面



5. 運搬用ハンドル	運搬用のハンドルです。 **注意点** ・運搬時にはハンドルと画面の下部をしっかりと持ち、モニターを落とさないようご注意ください。モニター前面のセンサー部は持たないでください。
6. USB ダウンストリームポート	USBに対応している周辺機器と接続できます。 SS ポートは急速充電に対応しています。
7. 盗難防止用ロック	Kensington社製のMicroSaverセキュリティシステムに対応しています。
8. スタンド※2	高さと角度（チルト、スウィーベル）が調整できます。
9. ケーブルホルダー	ケーブルを収納します。
10. 主電源スイッチ	主電源のオン / オフを切り替えます。|：オン、◯：オフ
11. 電源コネクタ	電源コードを接続します。
12. 信号入力コネクタ	背面の左から順に、次の入力コネクタがあります。 HDMIコネクタ1 HDMIコネクタ2 DisplayPortコネクタ1 DisplayPortコネクタ2
13. USB アップストリームポート	USB接続が必要なソフトウェア、USBハブ機能を使用する場合にUSBケーブルを接続します。

※2 この製品はスタンド部分を取り外すことによって、オプションアーム（またはオプションスタンド）に取り付けることが可能になります。

1-3. 解像度を設定する

モニターをコンピュータに接続したときに適切な解像度で表示されない場合、または解像度を変更したい場合は、次の手順で解像度を変更します。

● Windows 10の場合

1. デスクトップ上のアイコンがない場所で、右クリックします。
2. 表示されるメニューから「ディスプレイ設定」をクリックします。
3. 「ディスプレイのカスタマイズ」ダイアログボックスで「ディスプレイの詳細設定」をクリックします。
4. モニターを選択し、「解像度」のプルダウンメニューから解像度を選択します。
5. 「適用」ボタンをクリックします。
6. 確認のダイアログボックスが表示されるので、「変更の維持」ボタンをクリックします。

● Windows 8.1 / Windows 7の場合

1. Windows 8.1の場合、スタート画面から「デスクトップ」のタイルをクリックして、デスクトップを表示します。
2. デスクトップ上のアイコンがない場所で、マウスの右ボタンをクリックします。
3. 表示されるメニューから「画面の解像度」をクリックします。
4. 「画面の解像度」ダイアログボックスで、モニターを選択します。
5. 「解像度」をクリックして変更したい解像度を選択します。
6. 選択したら、「OK」ボタンをクリックします。
7. 確認のダイアログボックスが表示されるので、「変更を維持する」ボタンをクリックします。

参考

・表示される文字やその他の項目のサイズを変更する場合は、コントロールパネルから「ディスプレイ」を選択し、拡大率を変更してください。

● OS X Mavericks（10.9）以降の場合

1. アップルメニューの「システム環境設定」をクリックします。
2. 「システム環境設定」ダイアログボックスが表示されるので、「ディスプレイ」をクリックします。
3. 表示されたダイアログボックスで「ディスプレイ」タブを選択し、「サイズ調整」をクリックします。
4. 設定可能な解像度の一覧が表示されるので、一覧から変更したい解像度を選択します。
   目的の解像度が一覧に表示されない場合は、キーボードのOptionキーを押しながら「サイズ調整」を選択してください。
5. 選択したらすぐに画面が変更されるので、適切な解像度に設定したらウィンドウを閉じます。

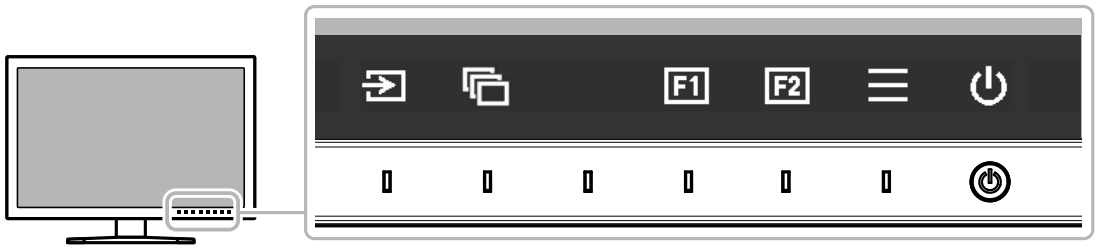
第 2 章　基本の設定

この章では、モニター前面のスイッチに触れることで設定できる基本の機能を説明します。
設定メニューを使って詳細に調整 / 設定する方法については、「第 5 章 詳細な調整 / 設定」（P.22）を参照してください。

2-1. スイッチの操作方法

1. 操作ガイドの表示

1. いずれかのスイッチに触れます（⏻を除く）。
   画面にガイドが表示されます。



2. 設定

1. 設定したいスイッチに触れます。
   設定メニューが表示されます。
2. 各スイッチで調整 / 設定し、✓を選択して確定します。

3. 終了

1. ✕を選択してメニューを終了します。
2. メニューが表示されていない状態で、数秒間スイッチを操作しないと、ガイドが自動的に終了します。

参考

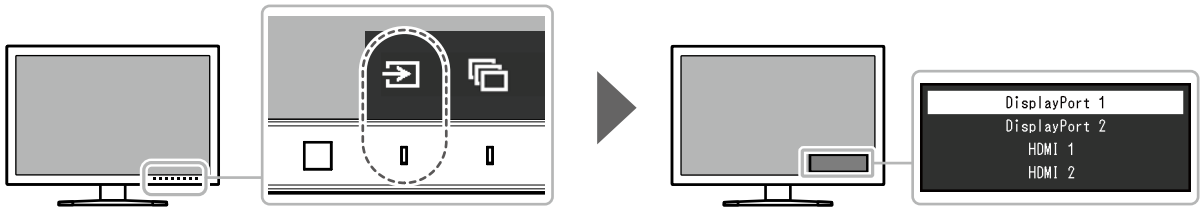
・ガイドの表示内容は、表示しているメニューや状態によって異なります。

● 操作ガイドのアイコン

アイコン	説明
	入力信号を切り替えます。
	カラーモードを切り替えます。
F1	カスタムキー1を実行します。
F2	カスタムキー2を実行します。
	設定メニューを表示します。
✕	ひとつ前の画面に戻ります。
< > ∧ ∨	カーソルを移動します。
✓	決定します。
⏻	モニターの電源のオン / オフを切り替えます。

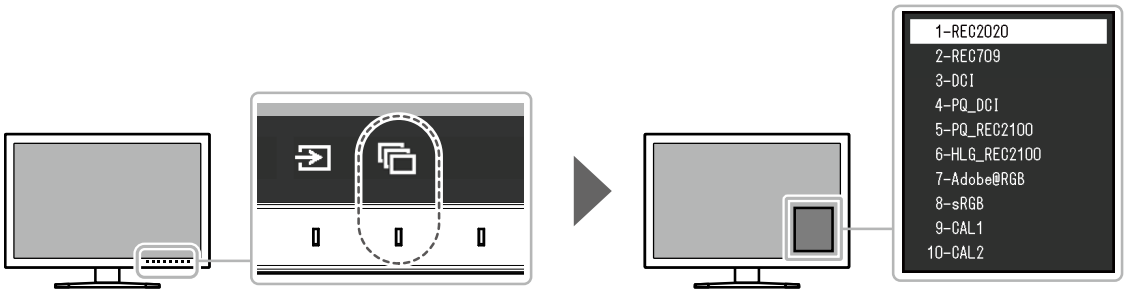
2-2. 入力信号を切り替える

モニターに複数の信号を入力している場合、画面に表示する信号を切り替えることができます。



2-3. 表示モード（カラーモード）を切り替える

モニターの用途に応じた表示モードに簡単に切り替えることができます。



● モードの種類

カラーモード		目的
Standard Mode		モニターの設定メニューを使用して色の調整をおこなうモードです。
	REC2020	各カラーモードにおける詳細な設定値については、「カラーモードの設定値」（P.13）を参照してください。
	REC709	
	DCI	
	PQ_DCI	
	PQ_REC2100	
	HLG_REC2100	
	Adobe®RGB	
	sRGB	
Calibration Mode（CALモード）		モニターのSelfCalibration機能、カラーマネージメントソフトウェア「ColorNavigator 6」、または「ColorNavigator NX」を使用して、モニターの色の調整をおこなうモードです。
	CAL1	SelfCalibration、ColorNavigator 6、またはColorNavigator NXによる調整状態で表示します。
	CAL2	

● カラーモードの設定値

ー：変更不可

項目				カラーモード								
				REC2020	REC709	DCI	PQ_DCI	PQ_ REC2100	HLG_ REC2100	Adobe® RGB	sRGB	CAL1 / CAL2
輝度（cd/m²）				100	100	48	300	300	300	120	120	ー
色温度				REC2020	REC709	DCI	DCI	REC2020	REC2020	Adobe® RGB	sRGB	ー
ガンマ				REC1886	REC1886	DCI	PQ	PQ	HLG	Adobe® RGB	sRGB	ー
PQ / HLG クリッピング（cd/m²）				ー	ー	ー	1000	1000	オフ	ー	ー	ー
HLGシステムガンマ				ー	ー	ー	ー	ー	1.2	ー	ー	ー
色域				REC2020	REC709	DCI	DCI	REC2020	REC2020	Adobe® RGB	sRGB	ー
詳細設定	色相			0	0	0	0	0	0	0	0	ー
	彩度			0	0	0	0	0	0	0	0	ー
	色域クリッピング			オン	オフ	オフ	オフ	オン	オン	オフ	オフ	ー
	XYZフォーマット			ー	ー	オフ	オフ	ー	ー	ー	ー	ー
	ゲイン	Red		色温度から算出								ー
		Green										ー
		Blue										ー
	黒レベル	Red		0	0	0	0	0	0	0	0	ー
		Green		0	0	0	0	0	0	0	0	ー
		Blue		0	0	0	0	0	0	0	0	ー
	6色	Magenta	色相	0	0	0	0	0	0	0	0	ー
			彩度	0	0	0	0	0	0	0	0	ー
			明度	0	0	0	0	0	0	0	0	ー
		Red	色相	0	0	0	0	0	0	0	0	ー
			彩度	0	0	0	0	0	0	0	0	ー
			明度	0	0	0	0	0	0	0	0	ー
		Yellow	色相	0	0	0	0	0	0	0	0	ー
			彩度	0	0	0	0	0	0	0	0	ー
			明度	0	0	0	0	0	0	0	0	ー
		Green	色相	0	0	0	0	0	0	0	0	ー
			彩度	0	0	0	0	0	0	0	0	ー
			明度	0	0	0	0	0	0	0	0	ー
		Cyan	色相	0	0	0	0	0	0	0	0	ー
			彩度	0	0	0	0	0	0	0	0	ー
			明度	0	0	0	0	0	0	0	0	ー
		Blue	色相	0	0	0	0	0	0	0	0	ー
			彩度	0	0	0	0	0	0	0	0	ー
			明度	0	0	0	0	0	0	0	0	ー

参考

- CAL1 / CAL2は、ColorNavigator 6またはColorNavigator NXを使用して設定します。モニター本体の設定メニューでは変更できません。
- カラーモードは、入力信号ごとに設定されます。
- 各項目の詳細は、「カラー調整」（P.25）を参照してください。
- 特定のカラーモードを選択できないようにすることができます。詳細は、「モードスキップ」（P.36）を参照してください。

第 3 章　SelfCalibration

この製品は、キャリブレーションセンサーを内蔵しています。事前に調整目標や調整の実行スケジュールを設定することで、キャリブレーションセンサーが自動的に作動し、定期的にモニターを調整します。この自動調整機能を「SelfCalibration」といいます。
SelfCalibrationは、実行するカラーモードによって調整内容が異なります。

- Calibration Mode（CALモード：CAL1 / CAL2）：
  - モニター単体でSelfCalibrationを実行する場合は、設定した目標に合わせてモニターを調整します。
  - ColorNavigator 6またはColorNavigator NXを使用する場合は、それぞれのソフトウェアと測定器を使って調整した状態を維持します。
- Standard Mode（CAL1 / CAL2を除くカラーモード）：
  モニターの色再現域を更新し、Standard Mode内の各モードの表示を次のように調整します。
  - 色温度を規格値に近くなるように補正します。
  - 色域をそれぞれの規格値に近くなるように補正します。
  - 輝度の情報を更新します。

参考

- SelfCalibrationは、モニターの電源を入れてから30分以上経過すると実行可能になります。
- SelfCalibrationは外部機器の信号が入力されていない状態でも実行することができます。
- ColorNavigator 6またはColorNavigator NXで設定した調整内容を維持するために、SelfCalibrationを実行することをお勧めします。
- モニターは使用するに従って輝度や色度が変化するため、定期的にモニターを調整することをお勧めします。
- 基準としたい外付けの測定器の測定結果に、内蔵キャリブレーションセンサーの測定結果を合わせること（コレレーション）ができます。詳細は、ColorNavigator 6またはColorNavigator NXの取扱説明書を参照してください。

調整目標や実行スケジュールは、ColorNavigator 6またはColorNavigator NXおよびモニターの設定メニューで設定できます。
ColorNavigator 6またはColorNavigator NXのソフトウェアおよび取扱説明書は当社のWebサイトからダウンロードできます。
http://www.eizo.co.jp

参考

- ソフトウェアを使用する場合は、モニターとコンピュータを付属のUSBケーブルで接続してください。
- USBケーブルの接続方法は、「接続方法」（P.50）を参照してください。
- ソフトウェアの使用中は、モニター前面の電源スイッチや操作スイッチを操作しないでください。

● SelfCalibrationの各機能

SelfCalibrationの詳細を設定します。

機能				設定範囲	説明
実行				ー	スケジュールに関係なく、手動でSelfCalibrationを実行することができます。 **参考** • 「実行」を選択後、内蔵キャリブレーションセンサーが出る前にウォーミングアップ（モニターの電源を付けてからモニターの表示が安定するまでの一定時間、モニターを表示した状態にすること）が実行される場合があります。
設定	実行モード設定	Standard Mode		オン オフ	Standard ModeでのSelfCalibrationの有効、無効を切り替えます。
		Calibration Mode	CAL1 CAL2	オン オフ	それぞれのカラーモードでのSelfCalibrationの有効、無効を切り替えます。
	スケジュール	開始タイミング		パワーセーブ 即時 アプリケーション制御 オフ	スケジュールで設定した時刻に到達したときに、SelfCalibrationを実行するタイミングを選択します。 • 「パワーセーブ」 次のいずれかの場合に実行します。 - 設定時刻に到達したときにパワーセーブまたは電源オフになっている場合 - 設定時刻以降にパワーセーブまたは電源オフに移行する場合 • 「即時」 設定時刻に到達するとすぐにSelfCalibrationを実行します。 • 「アプリケーション制御」 ColorNavigator Networkで設定したタイミングでSelfCalibrationを実行します。ColorNavigator Networkの詳細は、当社のWebサイト（http://www.eizo.co.jp）を参照してください。 • 「オフ」 SelfCalibrationを実行しません。
		実行サイクル		毎日 毎週 毎月 四半期 6か月 1年 使用時間	SelfCalibrationの実行サイクルを選択します。

機能			設定範囲	説明
設定	スケジュール	実行時期	1月/4月/7月/10月 2月/5月/8月/11月 3月/6月/9月/12月 1月/7月 2月/8月 3月/9月 4月/10月 5月/11月 6月/12月 1月～12月 50時間毎～500時間毎	実行サイクルが「四半期」「6か月」「1年」「使用時間」の場合に、SelfCalibrationを実行する時期を選択します。 実行サイクルの設定によって設定範囲が異なります。 • 「四半期」の場合 1月/4月/7月/10月、2月/5月/8月/11月、3月/6月/9月/12月 • 「6か月」の場合 1月/7月、2月/8月、3月/9月、4月/10月、5月/11月、6月/12月 • 「1年」の場合 1月～12月 • 「使用時間」の場合 50時間毎～500時間毎
		週	第1週目～第5週目	実行サイクルが「毎月」「四半期」「6か月」「1年」の場合に、SelfCalibrationを実行する週を選択します。 **参考** • 選択した週に、「曜日」で選択した曜日がない場合は、実行する週が以下となります。 - 選択した週が「第1週」の場合：第2週目 - 選択した週が「第5週」の場合：第4週目
		曜日	日曜日～土曜日	実行サイクルが「毎週」「毎月」「四半期」「6か月」「1年」の場合に、SelfCalibrationを実行する曜日を選択します。
		時間	0:00～23:55	実行サイクルが「毎日」「毎週」「毎月」「四半期」「6か月」「1年」の場合に、SelfCalibrationを実行する時間を選択します。
	時計合わせ		－	モニターの日時を設定します。 **参考** • 時計が設定されていないと、スケジュールが適用されません。 • 長時間主電源を切ったままにしておくと、時計の再設定が必要になる場合があります。 • ColorNavigator 6またはColorNavigator NXを起動すると、日時が自動的に設定されます。
結果			－	SelfCalibrationの実行結果が表示されます。
次回スケジュール			－	次回のSelfCalibrationの実行予定時期が表示されます。

3-1. 目標を設定する

Calibration Modeの調整目標を設定します。目標を設定するには、ColorNavigator 6またはColorNavigator NXで設定する方法と、モニター単体で設定する方法があります。
モニター単体で設定する場合は、「カラー調整」メニューで次の機能を設定します。

- 「カラーモード」
  目標を設定したいカラーモード（CALモード：CAL1 / CAL2）を選択します。
- 「目標設定」
  SelfCalibrationの調整目標を設定します。

3-2. 実行する

SelfCalibrationの実行方法には、スケジュールを設定して実行する方法とスケジュールに関係なく実行する方法があります。
スケジュールの設定方法には、ColorNavigator 6またはColorNavigator NXで設定する方法と、モニター単体で設定する方法があります。
モニター単体でスケジュールを設定してSelfCalibrationを実行する場合は、カラーモードのタイプ（Standard ModeまたはCalibration Mode）によってスケジュールを設定する方法が異なります。

注意点

- SelfCalibration実行中に外部機器からの映像信号の状態が変化（無信号になる、無信号から信号が入力される、など）すると、SelfCalibrationは自動的にキャンセルされます。

● スケジュールに関係なく実行する

手動でSelfCalibrationを実行します。
実行方法は次の2種類があります。

- 「SelfCalibration」メニューから実行する
  「SelfCalibration」メニューで、「実行」を選択します。
  「SelfCalibraton」メニューの「設定」ー「モード設定」で「オン」を選択したすべてのカラーモードに対してSelfCalibrationが実行されます。

- 「カラー調整」メニューから実行する
  「カラー調整」メニューの「カラーモード」で、実行するカラーモード（CALモード：CAL1 / CAL2）を選択し、「キャリブレーション実行」を選択します。
  表示しているカラーモードに対してSelfCalibrationを実行します。

● スケジュールを設定して実行する

SelfCalibrationの実行スケジュールを設定します。
「SelfCalibration」メニューの「設定」で、SelfCalibrationの実行スケジュールとモニターの日時を設定します。

注意点

- スケジュールを設定して実行したSelfCalibrationが自動的にキャンセルされた場合、キャンセルされてから1時間以上経過した後にモニターが省電力モードに移行するか、⏻で電源をオフにしたときに再実行されます。スケジュールに関係なく実行することもできます。

● Standard ModeでSelfCalibrationを有効にする

Standard ModeでSelfCalibrationを実行します。
「SelfCalibration」メニューの「設定」で、次の機能を設定します。

- 「実行モード設定」
  「Standard Mode」を「オン」に設定します。

● Calibration Mode（CALモード）でSelfCalibrationを有効にする

Calibration Mode（CALモード）でSelfCalibrationを実行します。
「SelfCalibration」メニューの「設定」で、次の機能を設定します。

- 「実行モード設定」
  「Calibration Mode」を選択します。
- 「Calibration Mode」
  実行したいカラーモード（CALモード：CAL1 / CAL2）を選択し、「オン」を設定します。

3-3. 結果を確認する

SelfCalibrationの調整結果をモニターで確認します。
「カラー調整」メニューで次の機能を設定します。

- 「カラーモード」
  結果を確認したいカラーモード（CALモード：CAL1 / CAL2）を選択します。
- 「結果」
  SelfCalibrationの調整結果を確認します。

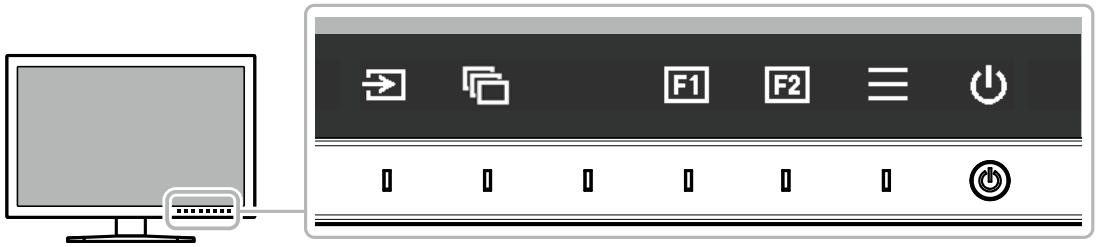
第 4 章　カスタムキーの設定

カスタムキーに機能を割り当てることで、特定の機能を簡単に起動することができます。
この章では、カスタムキーの操作方法とカスタムキーに機能を割り当てる方法を説明します。

4-1. カスタムキーの基本操作方法

1. 操作ガイドの表示

1. いずれかのスイッチに触れます（⏻を除く）。
   操作ガイドが表示されます。



2. 実行

1. F1 または F2 を選択します。
   F1 または F2 に割り当てられた機能が実行されます。

参考

- カスタムキーに機能が割り当てられていない場合にカスタムキーに触れると、カスタムキーへの機能割り当てメニューが表示されます。

4-2. カスタムキーの割り当て方法

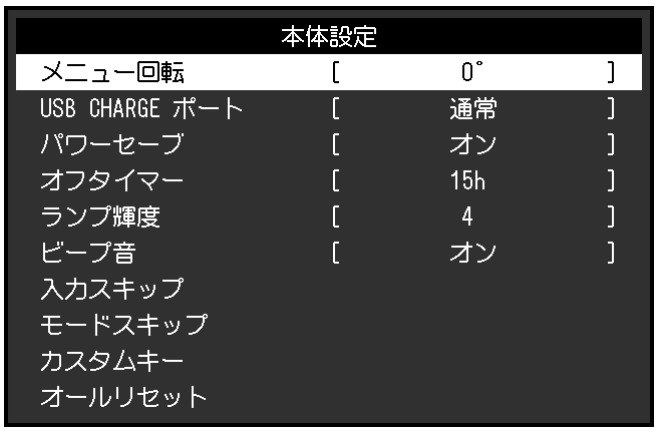
1. 操作ガイドの表示

1. いずれかのスイッチに触れます（⏻を除く）。
   操作ガイドが表示されます。

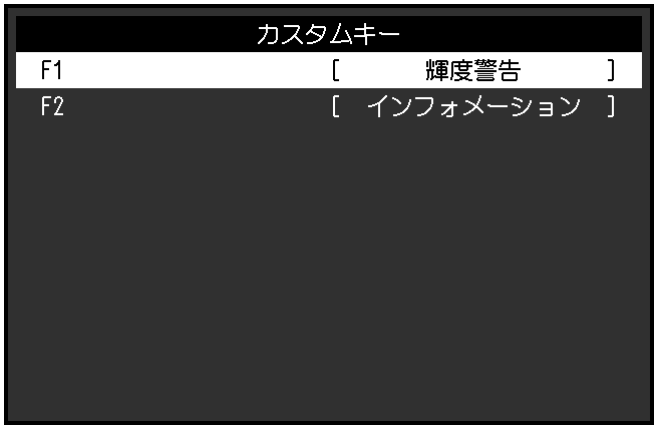
2. 設定

1. ☰ を選択します。
   設定メニューが表示されます。

2. ∧ ∨ で、「本体設定」を選択し、✓ を選択します。
本体設定メニューが表示されます。



3. ∧ ∨ で、「カスタムキー」を選択し、✓ を選択します。
カスタムキーメニューが表示されます。



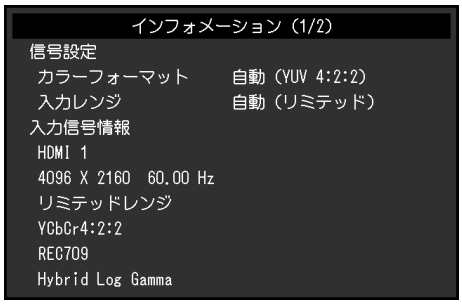
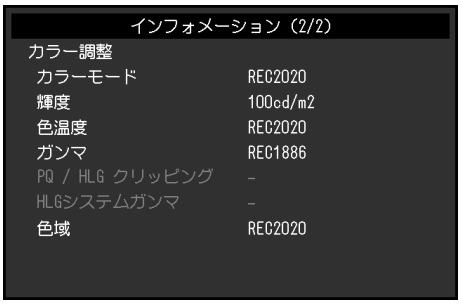
4. ∧ ∨ で、機能を割り当てるカスタムキーを選択し、✓ を選択します。
割り当てる機能メニューが表示されます。

5. ∧ ∨ で、割り当てる機能を選択し、✓ を選択します。
カスタムキーに機能が割り当てられます。

3. 終了

1. × を数回選択します。
設定メニューが終了します。

● カスタムキーに割り当てられる機能

機能	説明
オフ	カスタムキーに触れても動作しないようにします。
入力レンジ	入力レンジ機能を設定します。P.24を参照してください。
ズーム	ズーム機能を設定します。P.32を参照してください。
REC709色域外警告	REC709色域外警告機能を設定します。P.32を参照してください。
輝度警告	輝度警告機能を設定します。P.33を参照してください。
セーフエリア	セーフエリア機能を設定します。P.33を参照してください。
アスペクトマーカー	アスペクトマーカー機能を設定します。P.34を参照してください。
カラーモードリターン	前回使用していたカラーモードに戻ることができます。2つのカラーモード間で、表示の違いを確認する場合に便利です。
インフォメーション	入力信号の情報、およびカラー情報を表示することができます。 例：   **参考** • モニターの情報は、設定メニューの「インフォメーション」（P.37）で確認することができます。

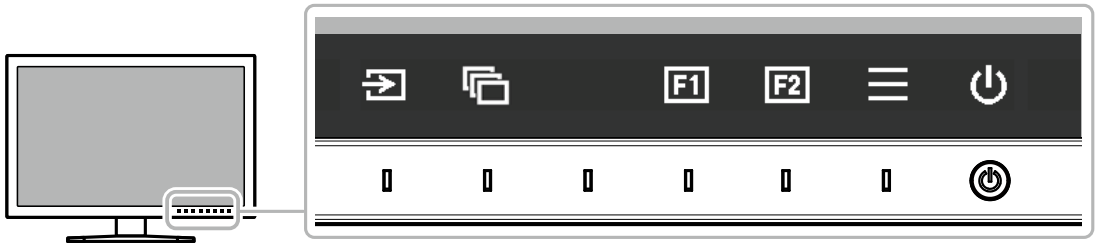
第 5 章　詳細な調整 / 設定

この章では、設定メニューを使ってモニターを詳細に調整 / 設定する方法を説明します。モニター前面のスイッチで設定できる基本的な機能については、「第 2 章 基本の設定」（P.11）を参照してください。

5-1. 設定メニューの基本操作方法

1. メニューの表示

1. いずれかのスイッチに触れます（⏻を除く）。
   操作ガイドが表示されます。



2. ☰を選択します。
   設定メニューが表示されます。

2. 調整 / 設定

1. ∧ ∨ で、調整 / 設定したいメニューを選択し、✓を選択します。
   サブメニューが表示されます。

2. ∧ ∨ で、調整 / 設定したい項目を選択し、✓ を選択します。
   調整 / 設定メニューが表示されます。

3. < > で、調整 / 設定し、✓ を選択して確定します。
   サブメニューが表示されます。
   調整 / 設定中に × を選択すると、調整 / 設定を中止して変更前の状態に戻ります。

3. 終了

1. × を選択します。
   設定メニューが表示されます。
2. × を選択します。
   設定メニューが終了します。

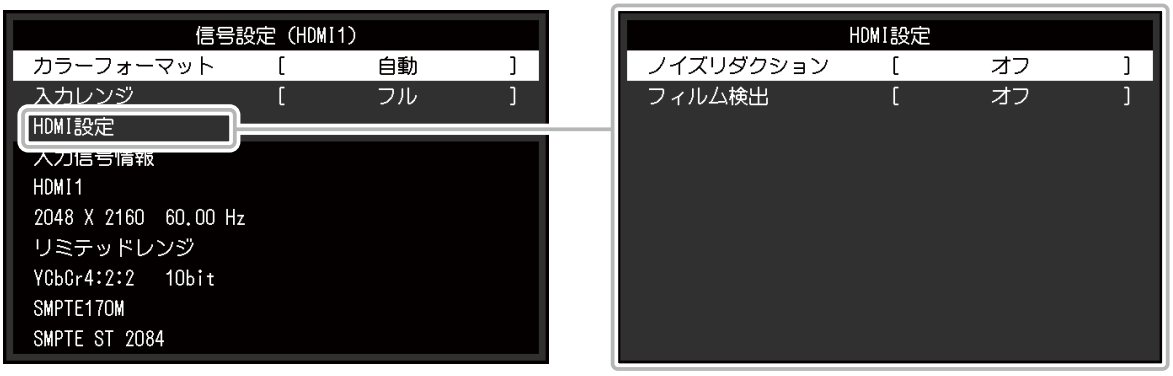
参考

・ガイドの表示内容は、表示しているメニューや状態によって異なります。

5-2. 設定メニューの各機能

● 信号設定

画面の表示サイズやカラーフォーマットなど、入力信号の詳細を設定します。



機能	設定範囲	説明
カラーフォーマット	自動 YUV※1 YUV 4:2:2※2 YUV 4:4:4※2 RGB	入力信号のカラースペースを指定できます。 正しい色が表示できない場合に、設定を変更してみてください。 YUV 4:2:0を入力する場合は、「自動」を選択してください。

※1 DisplayPort入力の場合のみ有効
※2 HDMI入力の場合のみ有効

機能		設定範囲	説明
入力レンジ		自動 フル リミテッド（109 % 白） リミテッド	外部機器によっては、モニターに出力する信号のビデオレベルの黒および白が制限されていることがあります。制限されたままモニターに信号を表示すると、黒が淡く、白がくすんで表示され、コントラストが低下します。このような信号を、モニター本来のコントラスト比になるように、輝度レンジを拡張して表示することができます。 • 「自動」 入力信号の輝度レンジを自動的に判別し、適切に表示します。 • 「フル」 入力信号の輝度レンジの拡張をおこないません。 • 「リミテッド（109 % 白）」 入力信号の輝度レンジを16～254（10ビット：64～1019）から0～255（10ビット：0～1023）に拡張して表示します。 • 「リミテッド」 入力信号の輝度レンジを16～235（10ビット：64～940）から0～255（10ビット：0～1023）に拡張して表示します。
HDMI設定	ノイズリダクション	オン オフ	映像の暗い部分に発生する細かいノイズを低減します。映像のノイズやざらつきを低減したい場合に使用します。 **参考** • HDMI入力の場合のみ設定できます。 • ノイズリダクション機能を利用すると、精細な画像が損なわれる場合があります。
	フィルム検出	オン オフ	インターレース信号を表示する際に、表示方法を選択できます。映画、CG、アニメーションなどの、毎秒24コマあるいは毎秒30コマの信号を自動的に判別して最適な画像を表示します。 **参考** • HDMI入力の場合のみ設定できます。 • 「フィルム検出」は1080iの信号入力時のみ有効です。 • 「フィルム検出」を「オン」に設定した場合に、映像に違和感があるときは、「オフ」に変更してください。
入力信号情報		ー	入力信号の情報を確認できます。 表示される情報は次のとおりです。 • 解像度 • 垂直走査周波数 • 入力レンジ • カラーフォーマット • 色深度 • カラリメトリ • EOT **注意点** • HDMI入力で「入力信号情報」に「SMPTE170M/BT.709」と表示されている場合、出力機器からの信号を正しく表示できない可能性があります。出力機器の設定を変更するか、DisplayPort入力をお勧めします。

● カラー調整

選択しているカラーモードによって設定内容が異なります。

カラーモードがStandard Mode（REC2020 / REC709 / DCI / PQ_DCI / PQ_REC2100 / HLG_REC2100 /Adobe® RGB / sRGB）の場合

各カラーモードの設定状態を、お好みにあわせて調整できます。

注意点

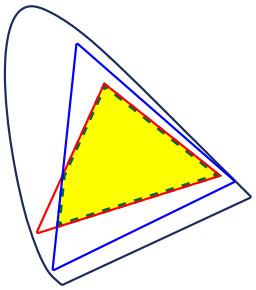
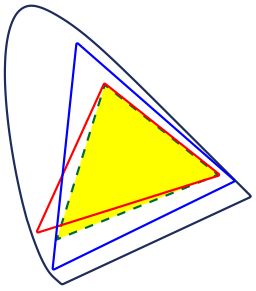
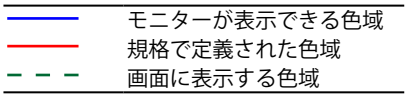
- モニターにはそれぞれ個体差があるため、複数台を並べると同じ画像でも異なる色に見える場合があります。複数台の色を合わせるときは、視覚的に判断しながら微調整してください。

参考

- 「cd/m²」、「K」、「%」表示は調整の目安としてご利用ください。

機能	設定範囲	説明
カラーモード	REC2020 REC709 DCI PQ_DCI PQ_REC2100 HLG_REC2100 Adobe® RGB sRGB CAL1 CAL2	モニターの用途に応じた表示モードに切り替えます。 **参考** • 各モードの切り替え方法は、「2-3. 表示モード（カラーモード）を切り替える」（P.12）を参照してください。 • 「CAL1 / CAL2」については、P.28を参照してください。
輝度	40cd/m² ～350cd/m²	バックライト（液晶パネル背面の光源）の明るさを変化させて、画面の明るさを調整します。 **参考** • 設定できない値が選択されている場合は、値がマゼンタで表示されます。値を変更してください。

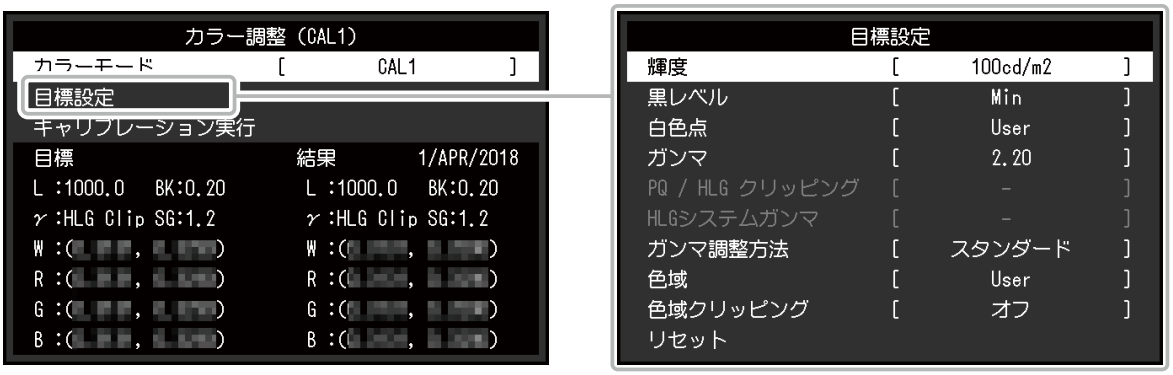
機能	設定範囲	説明
色温度	Native 4000 K ～10000 K D50 D65 Adobe®RGB sRGB EBU REC709 REC1886 REC2020 SMPTE-C DCI User	色温度を調整します。 「白」の色度を表現するときに用いられるもので、K：Kelvin（ケルビン）という単位で表します。 炎の温度と同様に、画面は色温度が低いと赤っぽく表示され、高いと青っぽく表示されます。 100K単位で色温度値を設定するか、規格名を選択します。 **参考** • 「Native」を選択すると、液晶パネル本来の色（ゲインの値はRGB各100 %）で表示されます。 • 「ゲイン」でさらに詳細な調整が可能です。ゲインの値を変更すると、色温度は「User」になります。 • 色温度の設定値ごとにゲインのプリセット値が設定されています。
ガンマ	1.6～2.7 Adobe®RGB sRGB EBU REC709 REC1886 REC2020 SMPTE-C DCI PQ HLG	ガンマ値を調整します。 モニターは入力される信号によって明るさが変化しますが、この変化率は入力信号と単純な比例関係にありません。そのため入力信号と明るさの関係が一定の関係になるよう制御をおこなうことをガンマ補正といいます。 ガンマ値を設定するか、規格名を選択します。 **参考** • 「HLG」を選択すると「HLGシステムガンマ」を設定する必要があります。
PQ / HLG クリッピング	（ガンマ：PQ） 300cd/m^2 500cd/m^2 1000cd/m^2 4000cd/m^2 オフ （ガンマ：HLG） オン オフ	• 「ガンマ」で「PQ」を選択した場合、モニターに入力された信号に対して、ここで設定した値以上の輝度を持つ領域を、この設定値でクリップして表示します。 • 「ガンマ」で「HLG」を選択した場合、クリッピングのオン / オフを設定します。 **参考** • ガンマで「PQ」または「HLG」を指定している場合に設定できます。 • クリップされた領域を確認することができます。詳細は、「輝度警告」（P.33）を参照してください。
HLGシステムガンマ	1.0～1.5	モニターに入力されたHLG信号に対するシステムガンマ値を調整します。 **参考** • ガンマで「HLG」を指定している場合に設定できます。
色域	Native Adobe®RGB sRGB EBU REC709 REC1886 REC2020 SMPTE-C DCI	モニターの色再現域（色域）を設定します。 表現できる色の範囲を「色域」といい、複数の規格が定義されています。 **参考** • 「Native」を選択すると、パネル本来の色域で表示されます。 • 定義された色域のうち、モニターが表示できない範囲の色の表示方法を設定することができます。詳細は、「色域クリッピング」（P.27）を参照してください。

機能		設定範囲	説明
詳細設定	色相	-100～100	色相を調整します。 **参考** • この機能を使用することによって、すべての色階調を表示できないことがあります。
	彩度	-100～100	彩度を調整します。 **参考** • この機能を使用することによって、すべての色階調を表示できないことがあります。 • 最小値（-100）で白黒の画面となります。
	色域クリッピング	オン オフ	「色域」（P.26）で設定した色域のうち、モニターが表示できない範囲の色の表示方法を設定できます。 • 「オン」 モニターが表示できる範囲の色は、規格に合わせて正確に表示します。表示できない範囲の色は飽和します。  • 「オフ」 色の正確性よりも、階調性を重視して表示します。規格で定義された色域の頂点を、モニターが表示できる範囲に移動します。これにより、モニターが表示できる最も近い色で表示します。   **参考** • 上図は概念図であり、製品の実際の色域を示すものではありません。 • この設定は「色域」（P.26）で「Native」を選択すると無効になります。
	XYZフォーマット	オン オフ	この機能を「オン」に設定すると、デジタルシネマ用のXYZ信号をモニターに表示できます。 **参考** • 「色域」（P.26）が「DCI」に設定されている場合のみ設定できます。 • 「オン」を選択すると、「色域」の設定ができなくなります。
	ゲイン	0 %～100 %	色を構成する赤、緑、青のそれぞれの明るさをゲインと呼びます。これを調整することで、「白」の色度を変更することができます。 **参考** • この機能を使用することによって、すべての色階調を表示できないことがあります。 • 色温度の値に応じてゲインの値が変わります。 • ゲインの値を変更すると、色温度は「User」になります。

機能		設定範囲	説明
詳細設定	黒レベル	0 %～100 %	赤、緑、青のそれぞれの黒レベルを調整することにより、黒の明るさ、色度を調整します。黒いテストパターンまたは背景を表示して黒レベルを調整してください。
	6色	-100～100	Magenta、Red、Yellow、Green、Cyan、Blueの色相、彩度、および明度（明るさ）を個別に調整します。
リセット		―	現在選択しているカラーモードのカラー調整値を初期設定に戻します。

カラーモードがCalibration Mode（CALモード：CAL1 / CAL2）の場合

カラーモードの切り替えやSelfCalibrationの目標設定およびキャリブレーション実行ができます。



機能			設定範囲	説明
カラーモード			REC2020 REC709 DCI PQ_DCI PQ_REC2100 HLG_REC2100 Adobe® RGB sRGB CAL1 CAL2	モニターの用途に応じた表示モードに切り替えます。 **参考** • 各モードの切り替え方法は、「2-3. 表示モード（カラーモード）を切り替える」（P.12）を参照してください。 • 「REC2020 / REC709 / DCI / PQ_DCI / PQ_REC2100 / HLG_REC2100 / Adobe® RGB / sRGB」については、P.25を参照してください。
目標設定	輝度		Min 40cd/m^2 ～350cd/m^2 Max	SelfCalibrationの調整目標となる輝度を設定します。
	黒レベル		Min 0.2～3.5	SelfCalibrationの調整目標となる黒レベルを設定します。
	白色点	色温度	4000 K ～10000 K User D50 D65 Adobe®RGB sRGB EBU REC709 REC1886 REC2020 SMPTE-C DCI	SelfCalibrationの調整目標となる白色点を設定します。 白色点は、色座標（White(x) / White(y)）または色温度で指定します。 色座標を指定する場合は、「White(x)」および「White(y)」でそれぞれの値を設定します。 色温度を指定する場合は、100K単位で色温度値を設定するか、各規格に準拠した色温度を選択します。 **参考** • 色座標を指定すると、色温度は「User」になります。
		White(x) / White(y)	0.2400 ～0.4500	

機能		設定範囲	説明
目標設定	ガンマ	1.0～2.7 Adobe®RGB sRGB EBU REC709 REC1886 REC2020 SMPTE-C DCI L* PQ HLG Fixed	SelfCalibrationの調整目標となるガンマを設定します。 ガンマ値を設定するか、各規格で定義されているガンマカーブを選択します。 **参考** • ColorNavigator 6またはColorNavigator NXで調整すると、ガンマは「Fixed」になります。
	PQ / HLG クリッピング	（ガンマ：PQ） 300cd/m^2 500cd/m^2 1000cd/m^2 4000cd/m^2 オフ （ガンマ：HLG） オン オフ	SelfCalibrationの調整目標となるPQ / HLG クリッピングを設定します。 **参考** • ガンマで「PQ」または「HLG」を指定している場合に設定できます。
	HLGシステムガンマ	1.0～1.5	SelfCalibrationの調整目標となるHLGシステムガンマを設定します。 **参考** • ガンマで「HLG」を指定している場合に設定できます。
	ガンマ調整方法	スタンダード グレイバランス重視 固定ガンマ	SelfCalibrationでのガンマの調整方法を選択します。 • 「スタンダート」 コントラストを維持しつつグレイバランスを調整します。 • 「グレイバランス重視」 中間階調の色度を白色点と同じになるように調整します。 • 「固定ガンマ」 特殊なガンマ設定を使用する場合に選択します。 **注意点** • ガンマで「HLG」を指定している場合は「固定ガンマ」が選択され、設定できません。 • 「グレイバランス重視」では、グレイスケール上のすべての点を目標白色点に近づける調整をおこないます。中間階調における白の色味を重視して補正する場合に選択します。ただし、「グレイバランス重視」を選択した場合には、次の制約があります。 - コントラストが低下する場合があります。 - 「固定ガンマ」に比べて色域が狭くなることがあります。

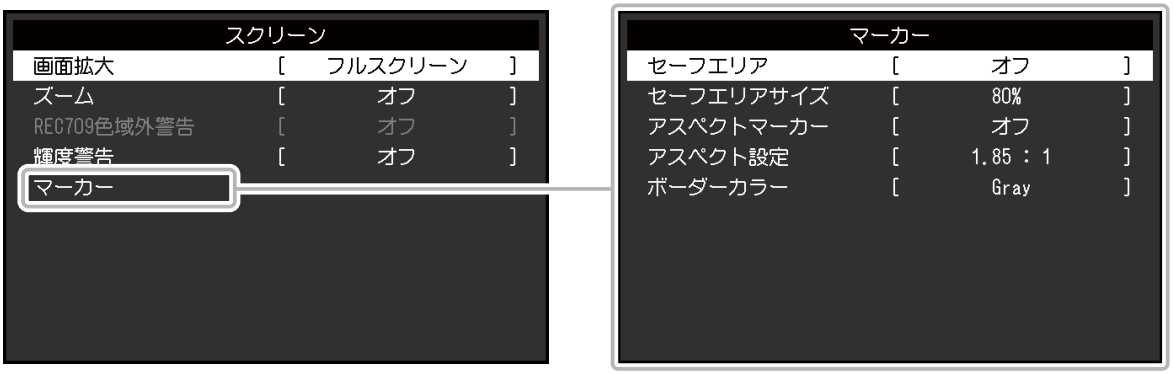
機能			設定範囲	説明
目標設定	色域		Native Adobe®RGB sRGB EBU REC709 REC1886 REC2020 SMPTE-C DCI User	SelfCalibrationの調整目標となる色域を設定します。 「色域」では、各規格で定義されている色域を選択することができます。 各規格で定義されている色域以外に設定する場合は、赤、緑、青の色座標とモニター色域外の色の表示方法（「色域クリッピング」）を指定してください。 **参考** • 「色域」で「Native」を選択すると、パネル本来の色域で表示されます。 • 色域設定で色座標を指定すると、色域は「User」になります。
		Red(x) / Red(y) / Green(x) / Green(y) / Blue(x) / Blue(y)	0.0000 ～1.0000	
	色域クリッピング		オン オフ	
リセット			ー	現在選択しているカラーモードに設定されている調整目標および調整結果を初期設定に戻します。

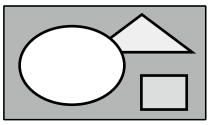
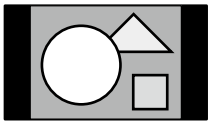
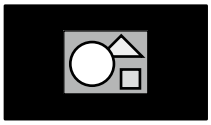
● SelfCalibration

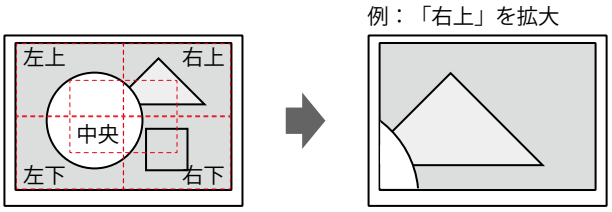
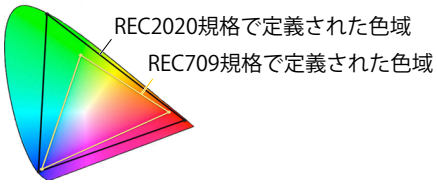
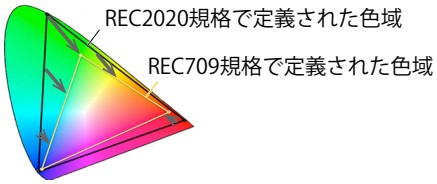
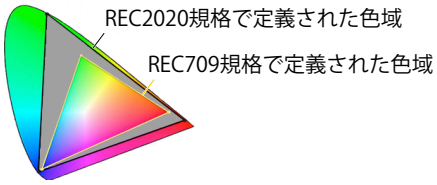
「SelfCalibrationの各機能」（P.15）を参照してください。

● スクリーン

画面の表示サイズやカラーフォーマットなど、入力信号の詳細を設定します。



機能	設定範囲	説明
画面拡大	自動 フルスクリーン アスペクト比固定 等倍	モニター画面に表示するサイズを切り替えることができます。 • 「自動」 入力信号の解像度情報とアスペクト比情報に応じて、自動的に表示サイズを切り替えます（HDMI入力のみ有効）。 • 「フルスクリーン」 画面全体に画像を表示します。ただし、拡大比率は縦、横一定とは限らないため、表示画像に歪みが見られる場合があります。 • 「アスペクト比固定」 画面全体に画像を表示します。ただし、拡大比率を縦、横一定にするため、水平、垂直のどちらかの方向に画像が表示されない部分が残る場合があります。 • 「等倍」 設定した解像度のまま、または入力信号のままの大きさで画像が表示されます。 **参考** • 設定例 - フルスクリーン  - アスペクト比固定  - 等倍（入力信号） 

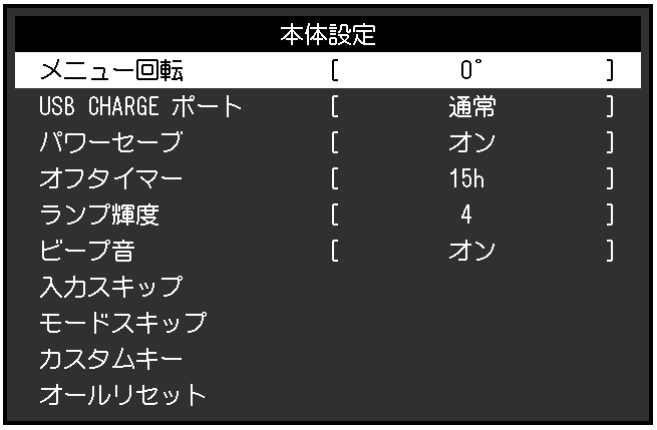
機能	設定範囲	説明
ズーム	オフ 中央 左下 左上 右上 右下	4K信号（解像度が4096×2160または3840×2160の信号）を画面に表示している場合、指定した領域を2倍に拡大表示することができます。映像の細部を確認するときなどに便利です。  **参考** • 「管理者設定」メニューの「表示設定」（P.40）が「2画面」の場合は使用できません。 • HDMIの4K信号を入力している場合は使用できません。
REC709色域外警告	オフ クリップ オン	「色域」を「REC2020」に設定している場合にITU-RのREC2020規格に準拠した信号を入力しているとき、REC709規格の色域を超える色の表示方法を設定することができます。 • 「オフ」 REC2020の色域のまま表示します。 （モニターに表示される実際の色域は「色域クリッピング」（P.27）の設定によります。）  • 「クリップ」 REC709の色域外の色をREC709の色域内で表現（クリップ）します。  • 「オン」 REC709の色域外の色をグレーで表示します。  **参考** • この機能は、「色域」（P.26）が「REC2020」に設定されている場合のみ設定できます。 • この機能を「オン」または「クリップ」に設定すると、「輝度警告」機能が自動的に「オフ」になります。

機能		設定範囲	説明
輝度警告		オフ オン(Yellow) オン(Magenta)	入力信号に対して、PQ / HLG クリッピング機能で設定した輝度よりも高い輝度を持つ領域（クリッピングされた領域）を確認することができます。 例：オン(Magenta)を設定 **参考** • この機能を「オン」に設定すると、「REC709色域外警告」機能が自動的に「オフ」になります。
マーカー	セーフエリア	オフ オン	セーフエリアとは、どのような表示機器でも表示できる領域のことをいいます。 この機能を「オン」に設定すると、映像編集などの際にセーフエリアの枠を表示して、字幕やメニュー画面などがセーフエリア内に収まるように目で確認しながら配置することができます。 **参考** • 「管理者設定」メニューの「表示設定」（P.40）を「2画面」に設定している場合は、左右の画面が同じ解像度のときのみセーフエリアの枠が表示されます。 • 「アスペクトマーカー」を「オフ」以外に設定すると、セーフエリアの設定は自動的に「オフ」になります。
	セーフエリアサイズ	80 %～99 %	セーフエリアのサイズを設定することができます。

機能		設定範囲	説明
マーカー	アスペクトマーカー	オフ マーカー 1 マーカー 2	デジタルシネマで規定されている映像サイズのアスペクト比に対応する枠を表示します。 • 「オフ」 アスペクトマーカーを表示しません。 • 「マーカー 1」 外枠を表示します。 • 「マーカー 2」 外枠と3等分したときの境界線を表示します。 構図の確認に利用できます。 **参考** • 次のいずれかの条件を満たす場合に設定できます。 - 「管理者設定」メニューの「表示設定」（P.40）が「1画面」で、表示解像度が2048×1080または4096×2160 - 「管理者設定」メニューの「表示設定」（P.40）が「2画面」で、左右の解像度が同じで、合わせて4K信号の解像度（4096×2160または2048×1080）になっている • 4096×2160の信号を表示している場合、左右の外枠は表示されません。 • 「セーフエリア」を「オン」にすると、アスペクトマーカーの設定は自動的に「オフ」になります。
	アスペクト設定	1.85：1 2.35：1 2.39：1	表示するアスペクトマーカーのアスペクト比を設定します。
	ボーダーカラー	White Red Green Blue Cyan Magenta Yellow Gray	枠の色を設定することができます。 **参考** • 「セーフエリア」および「アスペクトマーカー」共通の設定です。

● 本体設定

使用環境やお好みに合わせて、モニター本体の設定をおこないます。



機能	設定範囲	説明
メニュー回転	0˚ 90˚	設定メニューの向きを設置方向に合わせて変更することができます。 **参考** • モニターを縦表示するためには、縦表示対応のグラフィックスボードが必要です。モニターを縦表示にした場合、ご使用のグラフィックスボードの設定を変更する必要があります。詳細は、グラフィックスボードの取扱説明書を参照してください。当社のWebサイトもあわせて参照してください（http://www.eizo.co.jp/i/rotation/）。 • 縦表示で使用する場合は、付属のスタンドをアームなどに交換する必要があります。
USB CHARGE ポート	通常 充電専用	モニターのUSBダウンストリームポートの SS ポートはUSB 3.0の急速充電に対応しています。この設定を「充電専用」に変更することで、SS ポートに接続した機器を、「通常」設定時より早い時間で充電できます。 **参考** • この設定を切り替える前に、モニターに接続しているすべてのUSB機器とコンピュータとの通信を終了してください。設定を切り替えるときに、すべての通信が一時的に遮断されます。 • SS ポートに接続した機器が、急速充電に対応している必要があります。 • 「充電専用」に設定すると、SS ポートではコンピュータと接続機器間のデータ通信ができなくなり、接続機器は動作しません。 • 「充電専用」に設定すると、モニターとコンピュータをUSBケーブルで接続していない場合でも充電が可能です。

機能		設定範囲	説明
パワーセーブ		オン オフ	外部機器の状態と連動して、モニターを省電力モードにすることができます。 信号が入力されなくなったことを検出してから、約15秒後に省電力モードに移行します。省電力モードに移行すると、画面を非表示にします。 • 省電力モードからの復帰方法 - モニターに信号が入力されると、自動的に復帰し画面が表示されます。 **参考** • 省電力モードの移行の5秒前になると、移行をお知らせするメッセージが表示されます。 • モニターを使用しないときは、主電源スイッチをオフにすることで電力が消費されなくなります。 • 省電力モードの場合も、USBダウンストリームポートに接続している機器は動作します。そのためモニターの消費電力は、省電力モードであっても接続される機器によって変化します。
オフタイマー		オフ 6h 9h 12h 15h 18h	モニターの電源を自動的に切るための時間を設定します。モニターの電源を入れてから、またはモニターがパワーセーブから復帰してから、ここで設定した時間が経過すると自動的に電源がオフになります。 **参考** • オフタイマーが作動する1分前になると、モニターの電源がオフになることをお知らせするメッセージが表示されます。 • メッセージが表示されている間は、電源スイッチ以外のスイッチは操作できません。
ランプ輝度		オフ 1～7	画面表示時の電源スイッチおよび操作スイッチの明るさを設定することができます。
ビープ音		オン オフ	スイッチを操作したときの操作音を設定することができます。
入力スキップ		スキップ ー	入力信号を切り替えるときに、使用しない入力信号をスキップすることができます。 **参考** • すべての入力信号を「スキップ」にすることはできません。
モードスキップ		スキップ ー	モードを選択するときに、使用しないモードをスキップすることができます。表示するモードが限定されている場合や、表示状態をむやみに変更したくない場合にご利用ください。 **参考** • すべてのモードを「スキップ」にすることはできません。
カスタムキー	[F1] [F2]	オフ 入力レンジ ズーム REC709色域外警告 輝度警告 セーフエリア アスペクトマーカー カラーモードリターン インフォメーション	[F1]および[F2]スイッチに割り当てる機能を設定することができます。 **参考** • 初期設定では、[F1]スイッチに「輝度警告」機能が、[F2]スイッチに「インフォメーション」機能が設定されています。 • カスタムキーについては、「第 4 章 カスタムキーの設定」（P.19）を参照してください。
オールリセット		キャンセル OK	「管理者設定」メニュー内の設定を除く、すべての設定内容を初期設定に戻します。

● 言語選択

メニューやメッセージの表示言語を選択することができます。

設定範囲

English、Deutsch、Français、Español、Italiano、Svenska、日本語、簡体中文、繁體中文

● インフォメーション

モニターの情報（製造名、製造番号(S/N)、ファームウェアバージョン、使用時間）と、入力信号の情報を確認することができます。

例：

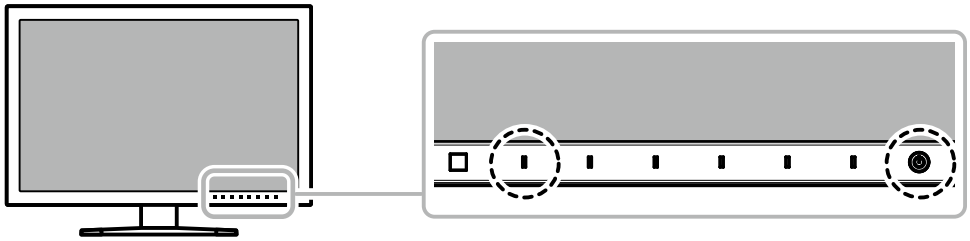
第 6 章　管理者向け設定

この章では、「管理者設定」メニューを使ってモニターの動作を設定する方法を説明します。
このメニューは管理者用です。通常のモニター使用時には、設定の必要はありません。

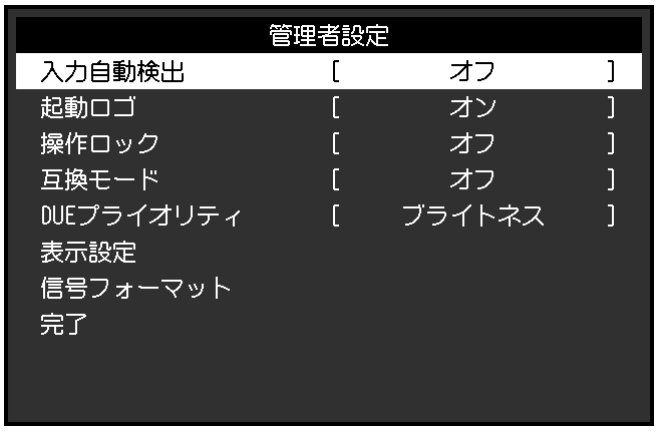
6-1. 「管理者設定」メニューの基本操作方法

1. メニューの表示

1. ⏻ に触れて、モニターの電源を切ります。
2. 一番左側のスイッチに触れながら、⏻ を2秒以上触れてモニターの電源を入れます。



「管理者設定」メニューが表示されます。



2. 設定

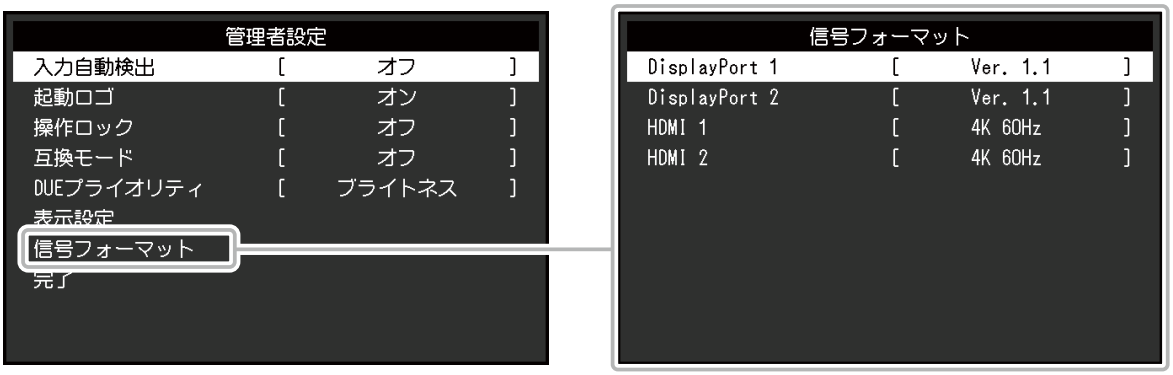
1. ∧ ∨ で、設定したい項目を選択し、✓を選択します。
   調整 / 設定メニューが表示されます。

2. < > で、設定し、✓ を選択します。
   「管理者設定」メニューが表示されます。

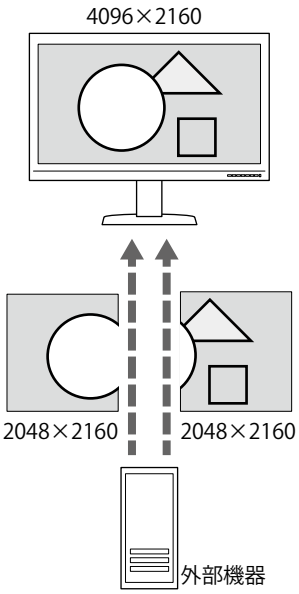
3. 確定と終了

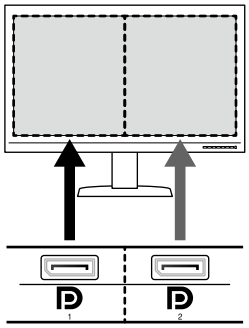
1. 「完了」を選択し、✓ を選択します。
   設定が確定し、「管理者設定」メニューが終了します。

6-2. 「管理者設定」メニューの各機能



機能	設定範囲	説明
入力自動検出	オフ オン	この機能を「オン」に設定すると、信号が入力されているコネクタを自動的に判別して画面を表示することができます。選択しているコネクタの入力信号がなくなると、自動的に他の信号を表示します。 「オフ」に設定すると、信号が入力されているかどうかにかかわらず、選択しているコネクタからの信号が表示されます。この場合は、モニター前面の操作スイッチ（ ）で、表示する入力信号を選択してください。
起動ロゴ	オフ オン	この機能を「オフ」に設定すると、製品の電源を入れた際に表示されるEIZOロゴを非表示にすることができます。
操作ロック	オフ メニュー オール	設定した状態を変更できないように、モニター前面の操作スイッチをロックすることができます。 • 「オフ」（初期設定） すべてのスイッチが有効です。 • 「メニュー」 スイッチをロックします。 • 「オール」 電源スイッチを除くすべてのスイッチをロックします。
互換モード	オフ オン	次の現象を回避したい場合は、この機能を「オン」に設定してください。 • モニターの電源をオフ / オンした場合や省電力モードからの復帰時に、ウィンドウやアイコンの位置がずれる。 • コンピュータのパワーセーブ機能が正常に動作しない。
DUEプライオリティ	ユニフォミティ ブライトネス	この製品には、デジタルユニフォミティ補正（DUE）機能が搭載され、画面の表示ムラを低減しています。このDUE設定を変更できます。 • 「ユニフォミティ」 表示ムラの低減を重視します。 • 「ブライトネス」 高輝度、高コントラストを重視します。 **参考** • DUEの設定を変更する場合、画面調整をしているモニターは、画面の再調整が必要になります。ColorNavigator 6またはColorNavigator NXでキャリブレーションおよび必要に応じてコレレーションをやりなおしてください。 • 詳細は、ColorNavigator 6の取扱説明書を参照してください。

<table>
<tr><th colspan="2">機能</th><th>設定範囲</th><th>説明</th></tr>
<tr><td>表示設定</td><td>DisplayPort</td><td>1画面
2画面</td><td>1台の外部機器から2系統の信号をモニターに入力し、左右に並べて画面を表示する場合に、この設定を「2画面」に変更します。例えば、4K（4096×2160）の信号出力に対応していないグラフィックスボードの場合に、2048×2160、2048×2160の2つの信号を左右に並べて表示させて、4Kの画面とするときなどに設定します。
 

参考
• 「2画面」表示の場合、画面の左側にはDisplayPort 1から入力される信号、右側にはDisplayPort 2から入力される信号が表示されます。
 

• 「2画面」の場合の対応解像度は次のとおりです。
640×480 / 720×400 / 800×600 / 1024×768 / 1280×960 / 1280×1024 / 1600×1200 / 1920×1080 / 1920×1200 / 1920×2160 / 2048×2160
• 「2画面」表示の場合、カラー調整の設定などは左側の画面に表示されているコネクタの設定が適用されます。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">信号フォーマット</td><td>DisplayPort 1
DisplayPort 2</td><td>Ver. 1.1
Ver. 1.2
エクストラ</td><td rowspan="2">モニターが表示できる信号の種類を切り替えることができます。入力信号が表示されない場合や意図した表示ができない場合に設定を変更してください。
参考
• 4K 30Hzと4K 60Hz エクストラの解像度の初期値は、1920×1080です。4K解像度で表示する場合は、ご使用のOSの解像度設定を変更する必要があります。</td></tr>
<tr><td>HDMI 1
HDMI 2</td><td>4K 30Hz
4K 60Hz
4K 60Hz エクストラ</td></tr>
</table>

第 7 章　トラブルシューティング

7-1. 画面が表示されない場合

症状	原因と対処方法
1. 画面が表示されない • 電源ランプが点灯しない	• 電源コードは正しく接続されていますか。 • 背面の主電源スイッチを入れてください。 • ⏻ に触れてください。 • 背面の主電源スイッチを切り、数分後にもう一度スイッチを入れてみてください。
• 電源ランプが点灯：白色	• 設定メニューの「輝度」、「ゲイン」の各調整値を上げてみてください（「カラー調整」（P.25）参照）。
• 電源ランプが点灯：橙色	• 入力信号を切り替えてみてください。 • マウス、キーボードを操作してみてください。 • 外部機器の電源は入っていますか。 • 背面の主電源スイッチを切り、もう一度スイッチを入れてみてください。 • 外部機器をDiplayPort接続している場合は、次の手順でDisplayPortのバージョンを切り替えてみてください。 1. ⏻ に触れて、モニターの電源を切ります。 2. 一番左側のスイッチに触れながら、⏻ に2秒以上触れます。 「管理者設定」メニューが表示されます。 3. 「信号フォーマット」を選択します。 4. DisplayPortのバージョンを1.1に切り替えます。 5. 「完了」を選択し、☑ を選択します。
• 電源ランプが点滅：橙色、白色	• 外部機器をDisplayPortコネクタに接続している場合に、この症状が発生することがあります。 当社指定の信号ケーブルで接続し、モニターの電源を入れ直してみてください。
2. 次のようなメッセージが表示される	この表示はモニターが正常に機能していても、信号が正しく入力されていないときに表示されます。
• 信号が入力されていない場合の表示です。 例： HDMI 1 入力信号無し	• 外部機器によっては電源を入れても信号がすぐに出力されないため、左のような画面が表示されることがあります。 • 外部機器の電源は入っていますか。 • 信号ケーブルは正しく接続されていますか。 • 入力信号を切り替えてみてください。 • 背面の主電源スイッチを切り、もう一度スイッチを入れてみてください。 • 「管理者設定」メニューの「信号フォーマット」を変更してみてください（「信号フォーマット」（P.40）参照）。
• 入力されている信号が周波数仕様範囲外であることを示す表示です。 例： HDMI 2 信号エラー	• 外部機器の設定が、この製品で表示できる解像度、垂直走査周波数になっていますか。詳細は対応解像度一覧（当社Webサイト（http://www.eizo.co.jp）からダウンロードできます。）を参照してください。 • 外部機器を再起動してみてください。 • グラフィックスボードのユーティリティなどで、適切な設定に変更してください。詳細は、グラフィックスボードの取扱説明書を参照してください。

7-2. 画面に関する症状

症状	原因と対処方法
1. 画面が明るすぎる / 暗すぎる	• 設定メニューの「輝度」を調整してください（「カラー調整」（P.25）参照）。液晶モニターのバックライトには、寿命があります。画面が暗くなったり、ちらついたりするようになったら、お客様ご相談窓口にお問い合わせください。
2. 残像が現れる	• この現象は液晶パネルの特性であり、固定画面で長時間使用することをできるだけ避けることをお勧めします。 • 長時間同じ画像を表示する場合は、コンピュータのスクリーンセーバーまたはパワーセーブ機能を使用してください。
3. 画面に緑、赤、青、白のドットが残る / 点灯しないドットが残る	• これらのドットが残るのは液晶パネルの特性であり、故障ではありません。
4. 画面上に干渉縞が見られる / パネルを押した跡が消えない	• 画面全体に白い画像または黒い画像を表示してみてください。症状が解消されることがあります。
5. 画面にノイズが現れる	• HDCP方式の信号を入力した場合、正常な画面がすぐに表示されないことがあります。
6. 電源のオフ / オン時や省電力モードからの復帰時に、ウィンドウやアイコンの位置がずれる	• 「管理者設定」メニューの「互換モード」で、設定を「オン」にしてください（「互換モード」（P.39）参照）。
7. （DisplayPort / HDMI信号入力時）画面の色がおかしい	• 設定メニューの「カラーフォーマット」を変更してみてください（「カラーフォーマット」（P.23）参照）。 • HDMI信号入力の場合、「管理者設定」メニューの「信号フォーマット」を変更してみてください（「信号フォーマット」（P.40）参照）。
8. 画面全体に画像が表示されない	• 設定メニューの「画面拡大」を変更してみてください（「画面拡大」（P.31）参照）。 • 設定メニューの「信号フォーマット」を変更してみてください（「信号フォーマット」（P.40）参照）。 • 解像度が推奨解像度（4096×2160）に設定されていますか。設定についてはグラフィックスボードの取扱説明書を参照してください。 • グラフィックスボードによっては、4K（4096×2160または3840×2160）の解像度を出力できない場合があります。グラフィックスボードの仕様を確認してください。 • 画面の半分にしか画像が表示されていない場合は、「管理者設定」メニューの「表示設定」（P.40）が「2画面」に設定されていないか確認してください。

7-3. SelfCalibrationに関する症状

症状	原因と対処方法
1. 内蔵キャリブレーションセンサーが出てこない/出たままになる	• 主電源を切り、数分後にもう一度電源を入れてみてください。
2. SelfCalibrationが実行できない	• SelfCalibrationを実行するカラーモードは設定されていますか（「実行モード設定」（P.15）参照） • モニターの日時が正しく設定されていますか（「時計合わせ」（P.16）参照）。 • 実行スケジュールが設定されていますか（「スケジュール」（P.15）参照）。 • 調整目標が正しく設定されていますか（「目標設定」（P.28）参照）。 • ColorNavigator 6 またはColorNavigator NXを使用してモニターを調整してみてください。
3. SelfCalibrationに失敗する	• エラーコード表を参照してください。エラーコード表にないコードが表示された場合は、お客様ご相談窓口にお問い合わせください。
4. SelfCalibrationが途中でキャンセルされる	• SelfCalibration実行中に外部機器からの映像信号の状態が変化（無信号になる、無信号から信号が入力される、など）すると、SelfCalibrationはキャンセルされます。 • 映像信号の状態が変わらないようにしてSelfCalibrationを実行してください。 • スケジュールを設定して実行したSelfCalibrationがキャンセルされた場合、1時間以上経過した後にモニターが省電力モードに移行するか、⏻で電源をオフにしたときに再実行されます。スケジュールに関係なく実行することもできます（「3-2. 実行する」（P.17）参照）。

エラーコード表

次のエラーが発生した場合、カラー調整メニューにエラーコードとエラーメッセージが表示されます。

- 調整目標値
- 輝度の設定範囲
- 黒レベルの設定範囲

エラーコード	エラーメッセージ
000020	センサーの開閉に失敗しました。 センサー周辺に異物がないか確認してください。
000021	センサーの開閉に失敗しました。 センサー周辺に異物がないか確認してください。
010141	目標値の設定が間違っています。 設定を見直してください。
****52	目標黒レベルに調整できません。 目標黒レベルを上げるか、"Min"に設定してください。

7-4. その他の症状

症状	原因と対処方法
1. 設定メニュー / モードメニューが表示できない	• 操作スイッチのロックが機能していないか確認してみてください（「操作ロック」（P.39）参照）。 • ColorNavigator 6 またはColorNavigator NXのメインウィンドウを表示している場合は操作スイッチがロックされています。ソフトウェアを終了してください。
2. USBケーブルで接続したモニターが認識されない / モニターに接続しているUSB周辺機器が動作しない	• USBケーブルは正しく接続されていますか（「8-4. USBハブ機能の使用方法」（P.50）参照）。 • 周辺機器を SS ポートに接続している場合は、「USB CHARGE ポート」の設定を確認してみてください（「USB CHARGE ポート」（P.35）参照）。「充電専用」に設定されている場合、周辺機器は動作しません。 • 外部機器の別のUSBポートに差し替えてみてください。 • モニターの別のUSBポートに差し替えてみてください。 • 外部機器を再起動してみてください。 • 直接外部機器と周辺機器を接続してみて、周辺機器が正しく動作した場合は、お客様ご相談窓口にお問い合わせください。 • ご使用の外部機器およびOSがUSBに対応しているかご確認ください（各機器のUSB対応については各メーカーにお問い合わせください）。 • ご使用のUSB 3.0ホストコントローラーによっては、接続したUSB機器を正しく認識できない場合があります。各メーカーが提供する最新のUSB 3.0ドライバに更新するか、USB 2.0ポートとモニターを接続してください。 • Windowsをご使用の場合、外部機器に搭載されているBIOSのUSBに関する設定をご確認ください（詳細は外部機器の取扱説明書を参照してください）。
3. 音声を出せない	• この製品はDisplayPort / HDMIの音声信号には対応していません。

第 8 章　ご参考に

8-1. オプションアーム取り付け方法

この製品はスタンド部分を取り外すことによって、オプションアーム（またはオプションスタンド）に取り付けることが可能になります。対応しているオプションアーム（またはオプションスタンド）については、当社のWebサイトを参照してください。http://www.eizo.co.jp

注意点

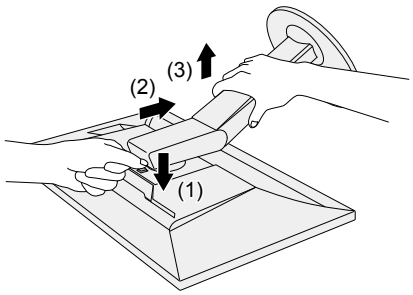
- 取り付けの際は、アームまたはスタンドの取扱説明書の指示に従ってください。
- 他社製のアームまたはスタンドを使用する場合は、次の点をアームまたはスタンドメーカーにご確認の上、VESA規格準拠のものを選択してください。取り付けには本製品に付属のVESAマウント取り付け用ねじをご使用ください。
  - 取付部のねじ穴間隔：100mm×100mm
  - プレート部の厚み：2.6mm
  - 許容質量：モニター本体の質量（スタンドなし）とケーブルなどの装着物の総質量に耐えられること
- アームまたはスタンドを使用する場合は、次の範囲（チルト角）で使用してください。
  - 上45˚下45˚
- ケーブル類は、アームまたはスタンドを取り付けた後に接続してください。
- 取り外したスタンドを昇降させないでください。モニター本体を取り付けていない状態でスタンドを昇降させると、けがや故障の原因となります。
- モニターおよびアームまたはスタンドは重量があります。落としたりするとけがや故障の原因になります。
- 縦置きに設置する場合は、モニター画面を時計回りに90˚回転してください。

オプションアーム（オプションスタンド）の取り付け方法

1. パネル面が傷つかないよう、安定した場所に柔らかい布などを敷き、パネル面を下に向けて置きます。

2. スタンド部分を取り外します。

図のように、ロックボタンを押しながら（**1**）、スタンドを、カタッと当たるまでスタンドベース側にスライドします（**2**）。その後、スタンドを上に持ち上げます（**3**）。



3. モニターにアーム（またはスタンド）を取り付けます。

本製品に付属のVESAマウント取り付け用ねじを使って取り付けます。

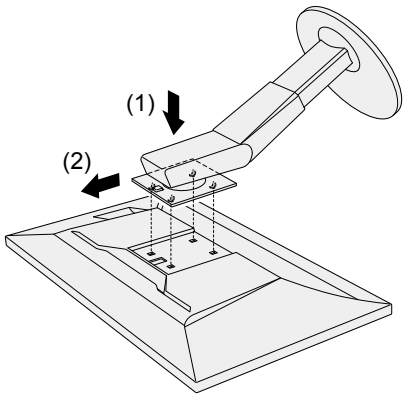
元のスタンドの取り付け方法

1. オプションアーム（またはオプションスタンド）を固定しているねじを外し、オプションアーム（またはオプションスタンド）を取り外します。

2. パネル面が傷つかないよう、安定した場所に柔らかい布などを敷き、パネル面を下に向けて置きます。

3. 元のスタンドを取り付けます。

図のように、スタンドのツメ（4つ）を、モニター背面の四角い穴に合わせて入れ（**1**）、スタンドを、モニター上部の方向へ、カチッと音がするまでスライドします（**2**）。



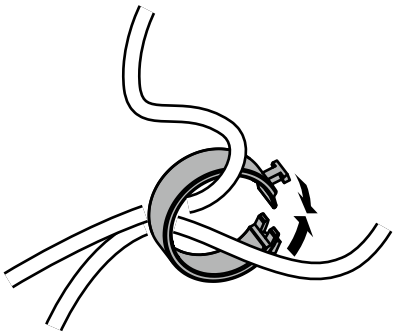
8-2. ケーブルホルダーの取り付け方法/取り外し方法

この製品にはケーブルホルダーが付属しています。モニターに接続したケーブル類を配線する際に利用してください。

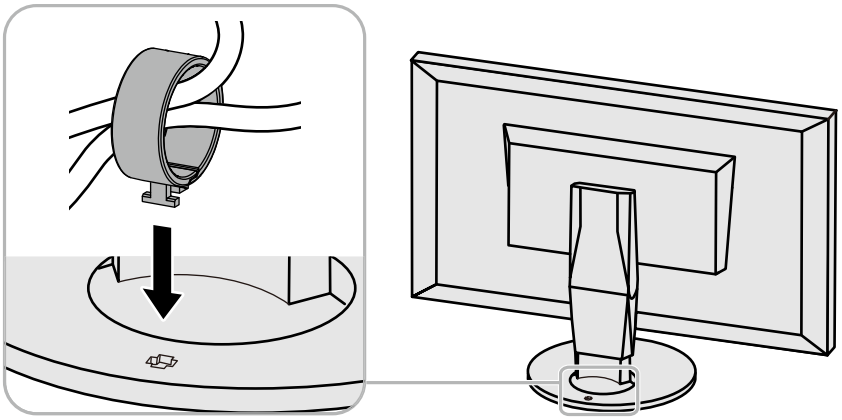
取り付け方法

1. ケーブルホルダーにケーブルを通します。

2. ケーブルホルダーの開口部を締めます。

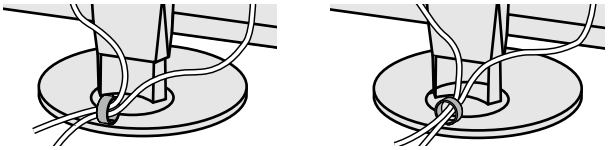


3. その状態のまま、スタンドに差し込みます。



参考

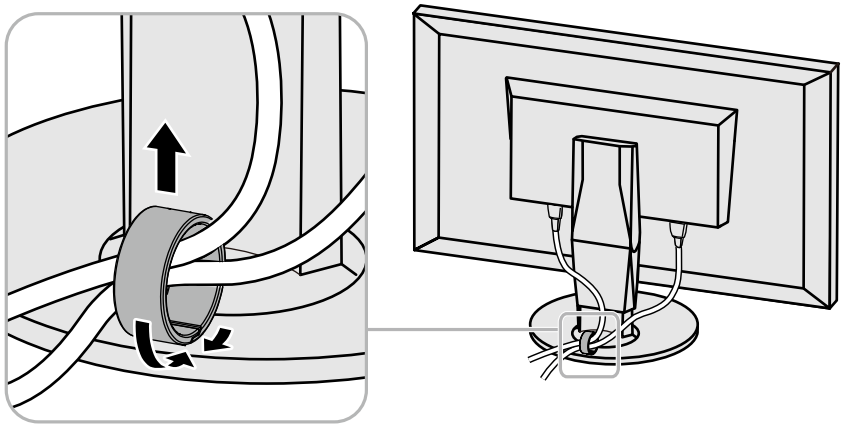
- ケーブルホルダーは縦、横のどちらの方向にも差し込むことができます。ケーブルの配線状況に応じて、ケーブルホルダーの向きを変えてください。



取り外し方法

1. **ケーブルホルダーの開口部を締めます。**

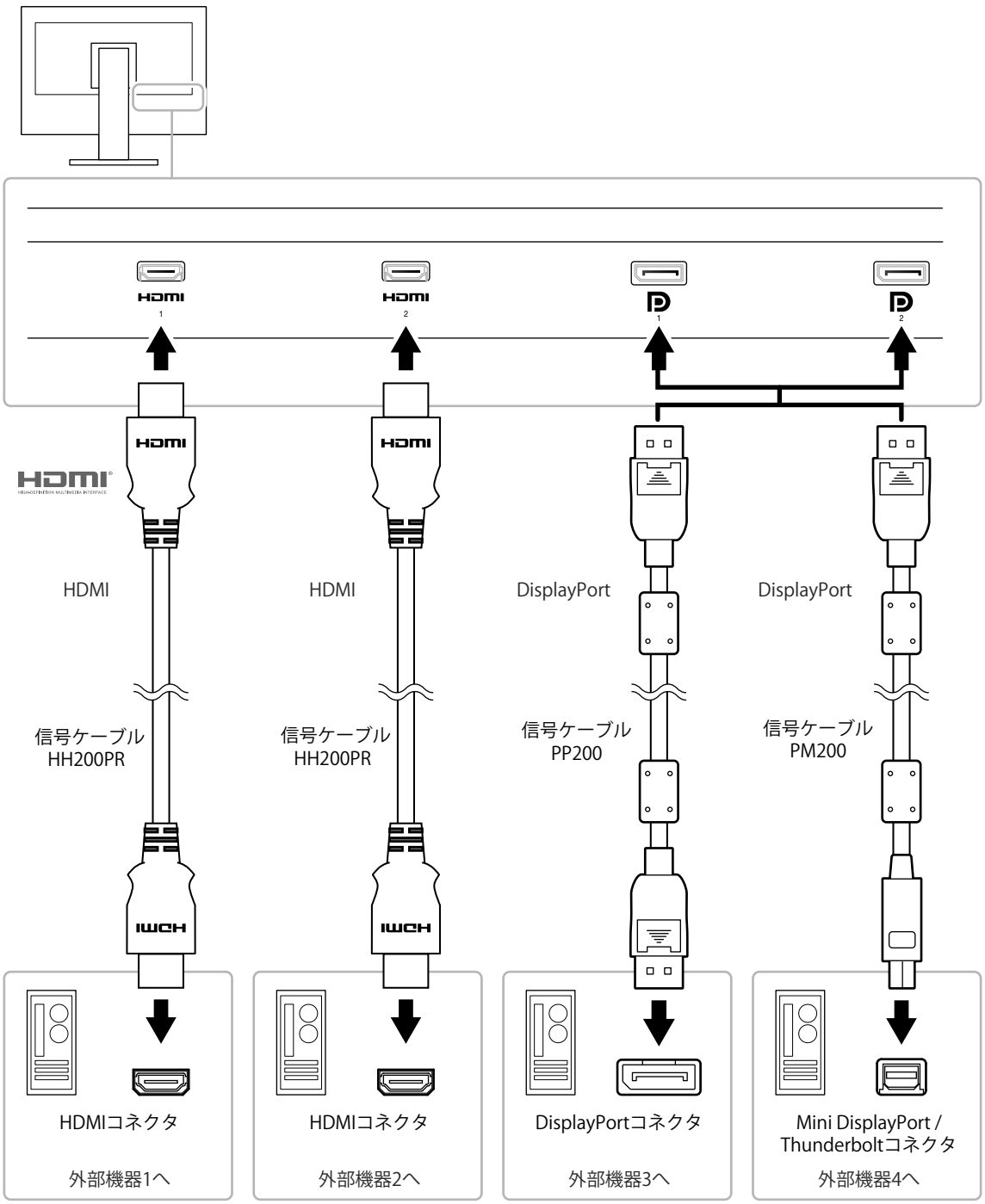
2. **その状態のまま、スタンドからケーブルホルダーを抜き取ります。**



8-3. 複数の外部機器を接続する

この製品は、複数の外部機器を接続し、切り替えて表示することができます。

接続例



参考

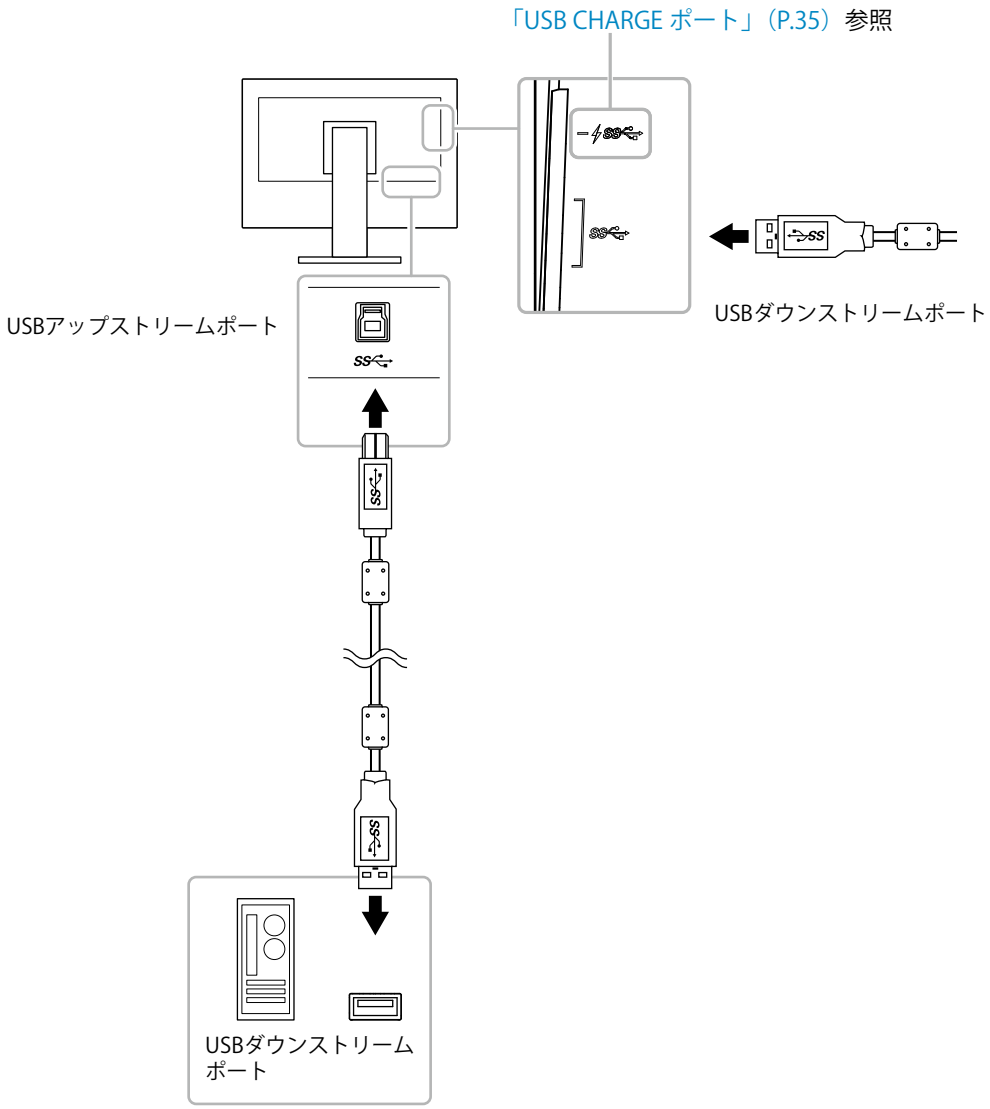
- モニター前面の操作スイッチ（ ）に触れるたびに入力信号が切り替わります。詳細は、「2-2. 入力信号を切り替える」（P.12）を参照してください。
- 信号が入力されているコネクタを自動的に判別して画面を表示することもできます。詳細は、「入力自動検出」（P.39）を参照してください。

8-4. USBハブ機能の使用方法

この製品はUSBハブを搭載しています。USB対応の外部機器に接続することにより、この製品がUSBハブとして機能し、USBに対応している周辺機器と接続できます。

● 接続方法

1. USB対応の外部機器のUSBダウンストリームポートとモニターのUSBアップストリームポートをUSBケーブルで接続します。



2. USB対応の周辺機器をモニターのUSBダウンストリームポートに接続します。

注意点

- 使用する外部機器、OSおよび周辺機器によっては動作しない場合があります。各機器のUSB対応については各メーカーにお問い合わせください。
- モニターが省電力モードの場合も、USBダウンストリームポートに接続している機器は動作します。そのためモニターの消費電力は、省電力モードであっても接続される機器によって変化します。
- 主電源スイッチオフ時、USBダウンストリームポートに接続されている機器は動作しません。
- 「本体設定」の「USB CHARGE ポート」が「充電専用」に設定されている場合、 ポートに周辺機器を接続しても動作しません。
- 「USB CHARGE ポート」の設定を切り替える前に、モニターに接続しているすべての周辺機器と外部機器との通信を終了してください。設定を切り替えるときに、すべての通信が一時的に遮断されます。

参考

- この製品はUSB 3.0に対応しています。USB 3.0に対応した周辺機器を接続すると、高速のデータ通信が可能になります（外部機器および周辺機器との接続に使用するUSBケーブルが、USB 3.0に対応している場合のみ）。
- USBダウンストリームポートの SS ポートは急速充電にも対応しています。短時間でスマートフォンやタブレットを充電することができます。（「USB CHARGE ポート」（P.35）参照）

8-5. 仕様

液晶パネル	種類		IPS（アンチグレア）
	バックライト		広色域LED
	サイズ		78.9cm（31.1）型（可視域対角78.9cm）
	解像度		4096ドット×2160ライン
	表示面積（横×縦）		698.0mm×368.1mm
	画素ピッチ		0.170mm×0.170mm
	画素密度		149ppi
	表示色		約10億7374万色（10bit入力時）
	視野角（水平 / 垂直、標準値）		178˚ / 178˚
	コントラスト比（標準値）		1500:1（「DUEプライオリティ」：「ブライトネス」設定時）
	応答時間（標準値）		黒→白→黒：20ms 中間階調域：9ms
	色域表示（標準値）		Adobe®RGBカバー率 99%、DCI-P3カバー率 98%
映像信号	入力端子		DisplayPort 1.2（HDCP 1.3対応）×2、 HDMI （HDCP 2.2/1.4、Deep Color対応）※1×2 ※1 HDMI CEC機能（相互制御機能）には対応していません。
	水平走査周波数		DisplayPort：25kHz～137kHz HDMI：15kHz～136kHz
	垂直走査周波数		DisplayPort：23Hz～61Hz（720×400時：69Hz～71Hz） HDMI：23Hz～61Hz（720×400時：69Hz～71Hz）
	フレーム同期モード		23.75Hz～30.25Hz、47.5Hz～60.5Hz
	ドットクロック（最大）		DisplayPort：598.3MHz HDMI：600MHz
USB	ポート		アップストリーム×1 ダウンストリーム×3（SS ポートは急速充電に対応）
	規格		USB Specification Rev.3.0 USB Battery Charging Specification Rev.1.2
	通信速度		5Gbps（スーパースピード）、480Mbps（ハイスピード）、12Mbps（フルスピード）、1.5Mbps（ロースピード）
	供給電源		ダウンストリーム：最大900mA/1ポート
			ダウンストリーム（SS ポート）： 通常 最大1.5A/1ポート、充電専用 最大2.1A/1ポート
電源	電源入力		AC 100V±10 %、50/60 Hz 1.45A
	最大消費電力		140W以下
	省電力時消費電力		1.2W以下（互換モード：オフ、USB機器非接続、入力自動検出：オフ、USBアップストリームポート非接続時）
	待機時消費電力		1.2W以下（互換モード：オフ、USB機器非接続、USBアップストリームポート非接続時）
機構	外観寸法	高さ最小	735mm×434.0mm×290mm（幅×高さ×奥行） （チルト角度0˚時）
		高さ最大	735mm×595.9mm×307mm（幅×高さ×奥行） （チルト角度35˚時）
	外観寸法（モニター部）		735mm×423mm×71.5mm（幅×高さ×奥行）
	質量		約12.4kg
	質量（モニター部）		約8.3kg
	昇降		154mm（チルト角度0˚時）/155mm（チルト角度35˚時）
	チルト		上35˚、下5˚
	スウィーベル		344°

動作環境条件	温度	0˚C～35℃（横置き使用時）/0℃～30℃（縦置き使用時※2） ※2 モニターを縦置きで使用するときは、付属のスタンドをアームなどに交換する必要があります。
	湿度	20 %～80 %（R.H.,結露なきこと）
	気圧	540hPa～1060hPa
輸送/保存環境条件	温度	-20˚C～60˚C
	湿度	10 %～90 %（R.H.,結露なきこと）
	気圧	200hPa～1060hPa

● オプション

信号ケーブル	PP200（DisplayPort - DisplayPort） PM200（Mini DisplayPort - DisplayPort） HH200PR（HDMI - HDMI）

オプション品に関する最新情報は、当社のWebサイトを参照してください。http://www.eizo.co.jp

付録

商標

HDMI、HDMI High-Definition Multimedia InterfaceおよびHDMIロゴは、HDMI Licensing, LLCの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
DisplayPortコンプライアンスロゴ、VESAはVideo Electronics Standards Associationの登録商標です。
SuperSpeed USB Trident LogoはUSB Implementers Forum, Inc.の登録商標です。

DICOMは、National Electrical Manufacturers Associationが所有する、医用情報のデジタル通信に関する規格の登録商標です。
Kensington、MicrosaverはACCO Brands Corporationの登録商標です。
ThunderboltはIntel Corporationの米国および/またはその他の国における商標です。
Microsoft、Windowsは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
AdobeはAdobe Systems Incorporated （アドビ システムズ社）の米国およびその他の国における登録商標です。
Apple、macOS、Mac OS、OS X、Macintosh、ColorSyncはApple Inc.の登録商標です。
EIZO、EIZOロゴ、ColorEdge、CuratOR、DuraVision、FlexScan、FORIS、RadiCS、RadiForce、RadiNET、Raptor、ScreenManagerはEIZO株式会社の日本およびその他の国における登録商標です。
ColorEdge Tablet Controller、ColorNavigator、EcoView NET、EIZO EasyPIX、EIZO Monitor Configurator、EIZO ScreenSlicer、G-Ignition、i・Sound、Quick Color Match、RadiLight、Re/Vue、Screen Administrator、Screen InStyle、UniColor ProはEIZO株式会社の商標です。
その他の各会社名、各製品名は、各社の登録商標または商標です。

ライセンス

この製品上で表示される文字には、リコーインダストリアルソリューションズ株式会社が制作したビットマップフォントを使用しています。

アフターサービス

この製品のサポートに関してご不明な場合は、別紙「お客様ご相談窓口のご案内」に記載の窓口にお問い合わせください。

保証書について

この製品の保証書はセットアップガイドにあります。必要事項をご記入の上、購入日が分かる書類（レシートなど）とともに保管してください。

修理を依頼されるとき

保証期間中の場合

保証書の規定に従い、修理または交換をさせていただきます。

保証期間を過ぎている場合

修理範囲（サービス内容）、修理費用の目安、修理期間、修理手続きなどを説明いたします。

修理を依頼される場合にお知らせいただきたい内容

- お名前、ご連絡先の住所、電話番号 / FAX番号
- お買い上げ年月日、販売店名
- 製品名、製造番号（製造番号は、本体の背面部のラベルに表示されている8桁の番号です。例：S/N 12345678）
- 使用環境（コンピュータ / グラフィックスボード / OS、システムのバージョン / 表示解像度など）
- 故障または異常の内容（できるだけ詳細に）
- エラーコード（画面に表示された場合）

製品回収、リサイクルシステムについて

パソコン及びパソコン用モニターは「資源有効利用促進法」の指定再資源化製品に指定されており、メーカーは自主回収及び再資源化に取り組むことが求められています。当社は、使用済みモニターの回収、リサイクル体制を構築しており、お客様がこの製品をご使用後に廃棄する際は次の要領でお引き取りしています。なお、詳細な情報については、当社のWebサイトもあわせて参照してください。（http://www.eizo.co.jp）

法人のお客様

この製品は、法人のお客様が使用後産業廃棄物として廃棄される場合、有償で一般社団法人「パソコン3R推進協会」がお引き取りいたします。当社のWebサイトよりお申し込みください。（http://www.eizo.co.jp）

個人のお客様

- **PCリサイクルマークの無償提供について**

  この製品は、PCリサイクル対象製品です。当社では、この製品をご購入いただいた個人のお客様にPCリサイクルマークを無償でご提供しております。ご購入後すぐに、当社のWebサイトよりお申し込みください。（http://www.eizo.co.jp）

  マークは本体背面部のラベルの近くに貼り付けてください。

  一般社団法人　パソコン3R 推進協会内　パソコンリサイクル受付センター
  EIZO Webサイト：http://www.eizo.co.jp/support/recycle/personal/index.html
  ※「PCリサイクルマーク申込」からお入りください。
  （回収担当窓口は、一般社団法人　パソコン3R 推進協会内　パソコンリサイクル受付センターにて対応いたします。）

  申し込みには、本体の背面部のラベル上に記載されている製品名と製造番号が必要となります。

- **PCリサイクルマークについて**

  個人のお客様が、このマークが付いた当社製品の回収を一般社団法人　パソコン3R推進協会内　パソコンリサイクル受付センターにご依頼いただいた場合は、お客様に料金を負担いただくことなく回収、再資源化いたします。

- **お問い合わせ**

  本件に関するお問い合わせは、一般社団法人　パソコン3R推進協会内　パソコンリサイクル受付センターまでお願いいたします。

  一般社団法人　パソコン3R 推進協会内　パソコンリサイクル受付センター
  電話：044-540-0576
  月曜日～金曜日（祝日および同センター指定の休日を除く）10：00～17：00

03V27330B2
UM-CG319X

Copyright © 2018 EIZO Corporation. All rights reserved.

2nd Edition-May, 2018